

令和2年度 栄区セーフコミュニティアンケート 集計概要

1 調査の概要

- 対象者：住民基本台帳から無作為抽出した栄区在住の20歳以上の男女1,500人
- 実施時期：令和2年11月4日（水）～11月25日（水）
- 実施方法：郵送配布、郵送回収
- 設問数：22問
- 回答者数：755件（回収率50.3%）

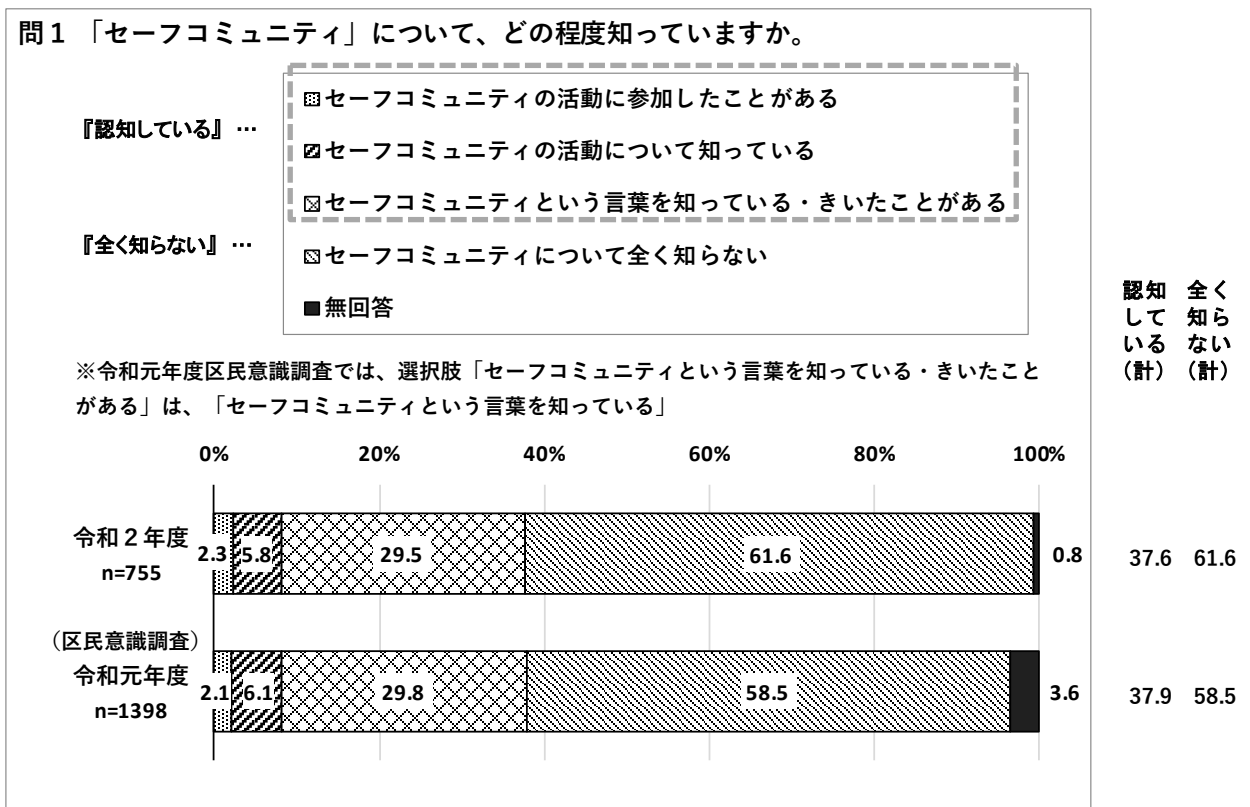
【集計結果の見方】

1. 図(グラフ)の中で使用されている「n=〇〇」は、その設問に対する回答者数をあらわす。
2. 回答の比率(すべて百分率(%)で表示)は、その設問の回答者数を基数(件数)として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。
3. 項目をまとめてひとつのカテゴリーにする場合(例えば問1など)、各回答項目の回答者数の合計を基数として%を算出している。各回答項目は小数点第2位以下を四捨五入しているため、回答項目の%の合計と一致しない場合がある。

2 結果の概要

【1 セーフコミュニティ全体】

- (1) **セーフコミュニティの認知度：3割強の区民が何らかの形でセーフコミュニティを認知している**
 セーフコミュニティについて「活動に参加したことがある」「活動について知っている」「言葉を知っている」を合わせた『認知している』方が37.6%、『全く知らない』方が61.6%となっている。
 令和元年度調査と比較すると、『認知している』割合は0.3ポイント減で横ばいという結果になった。

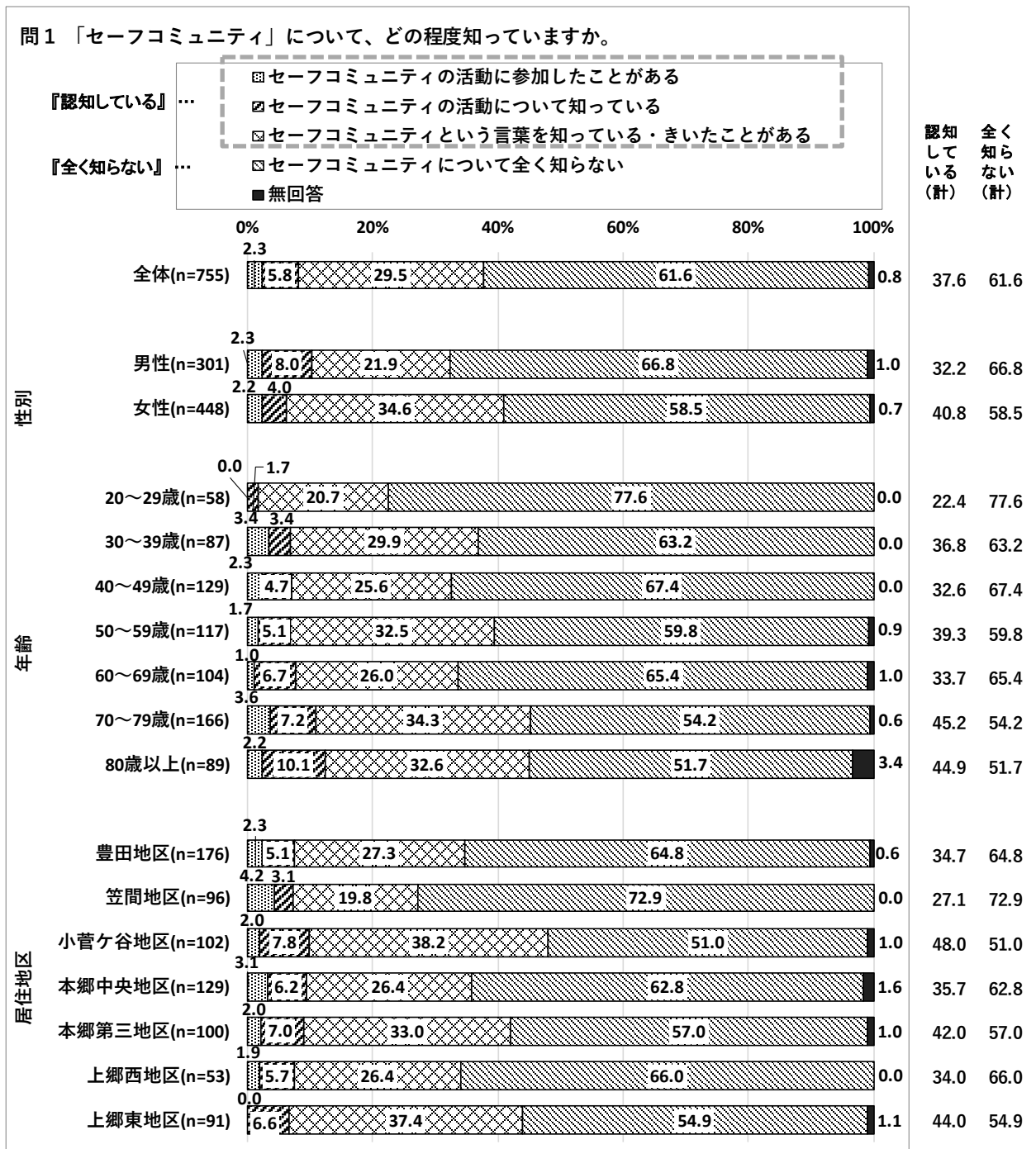


(1) 属性別セーフコミュニティの認知度：女性の方が、男性よりもセーフコミュニティを認知している

『認知している』割合は、「女性」が40.8%と「男性」の32.2%に比べて8.6ポイント高い。

年齢別では、「20～29歳」では「全く知らない」割合が77.6%と全体より15ポイント以上高くなっている一方、「70～79歳」「80歳以上」では『認知している』割合が、それぞれ45.2%、44.9%と全体より5ポイント以上高くなっている。

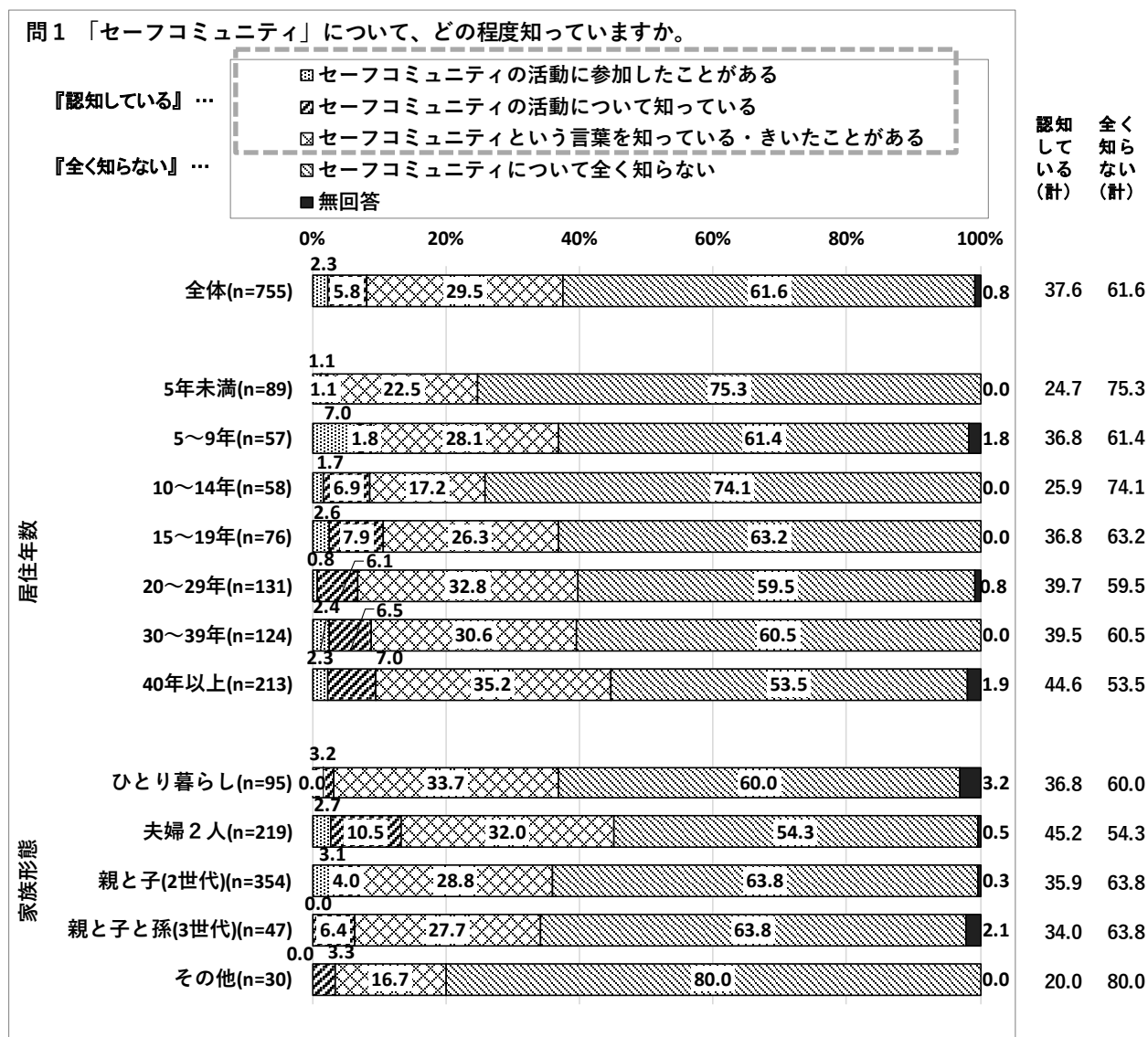
居住地区別では「小菅ヶ谷地区」では『認知している』割合が48.0%と全体より10ポイント以上高く、「笠間地区」では「全く知らない」割合が72.9%と全体よりも10ポイント以上高い。



居住年数別では「40年以上」では『認知している』割合が44.6%と、全体より5ポイント以上高く、10年以上では、居住年数が長くなるほど『認知している』割合が高くなる傾向がみられる。一方、「全く知らない」割合は、「5年未満」「10～14年」でそれぞれ75.3%、74.1%と、全体より10ポイント以上高い。

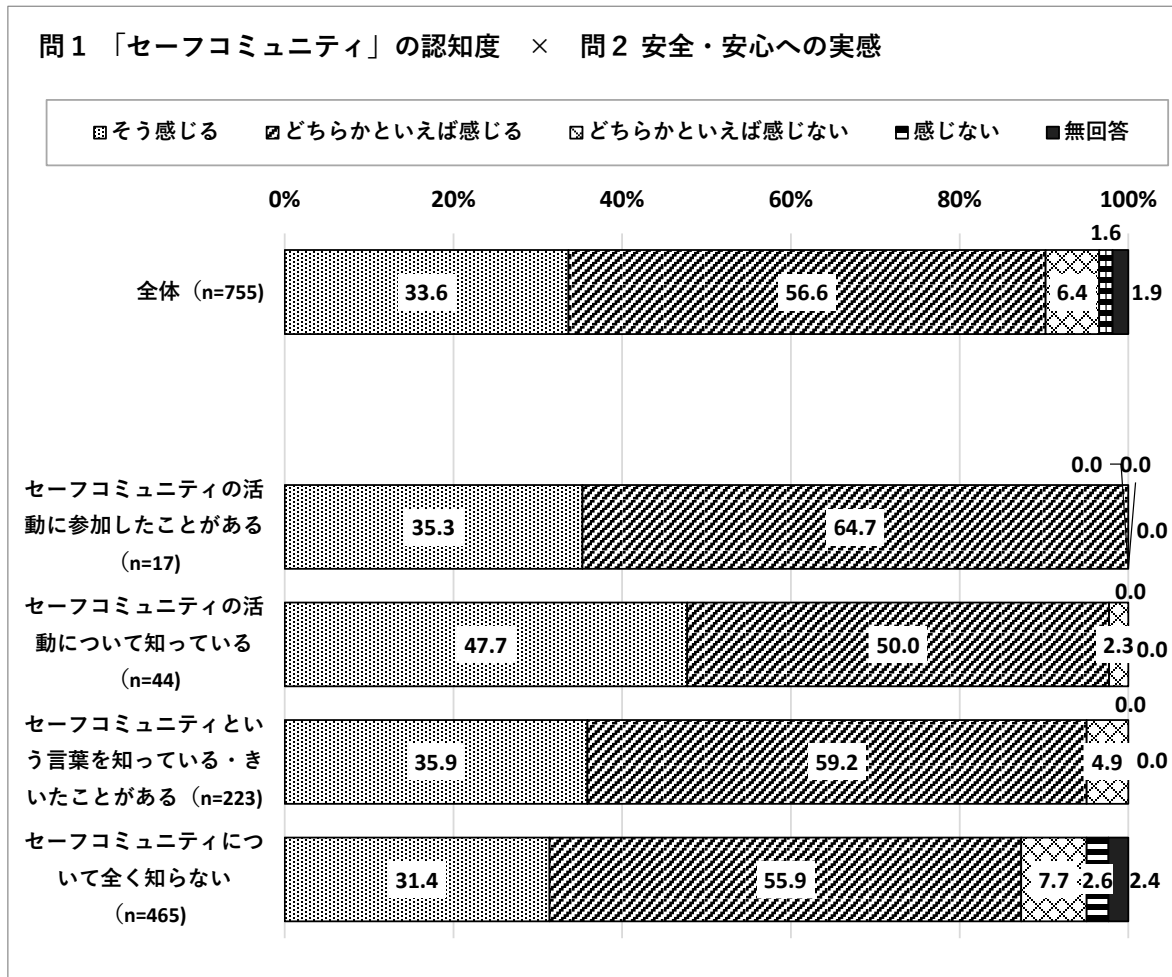
家族形態別では『認知している』割合が45.2%と、全体より5ポイント以上高い。

・「親と子(2世代)」「夫婦2人」では「活動に参加したことがある」割合がそれぞれ3.1%、2.7%と、他の家族形態が0%であることに比べるとわずかではあるが参加が見られる。



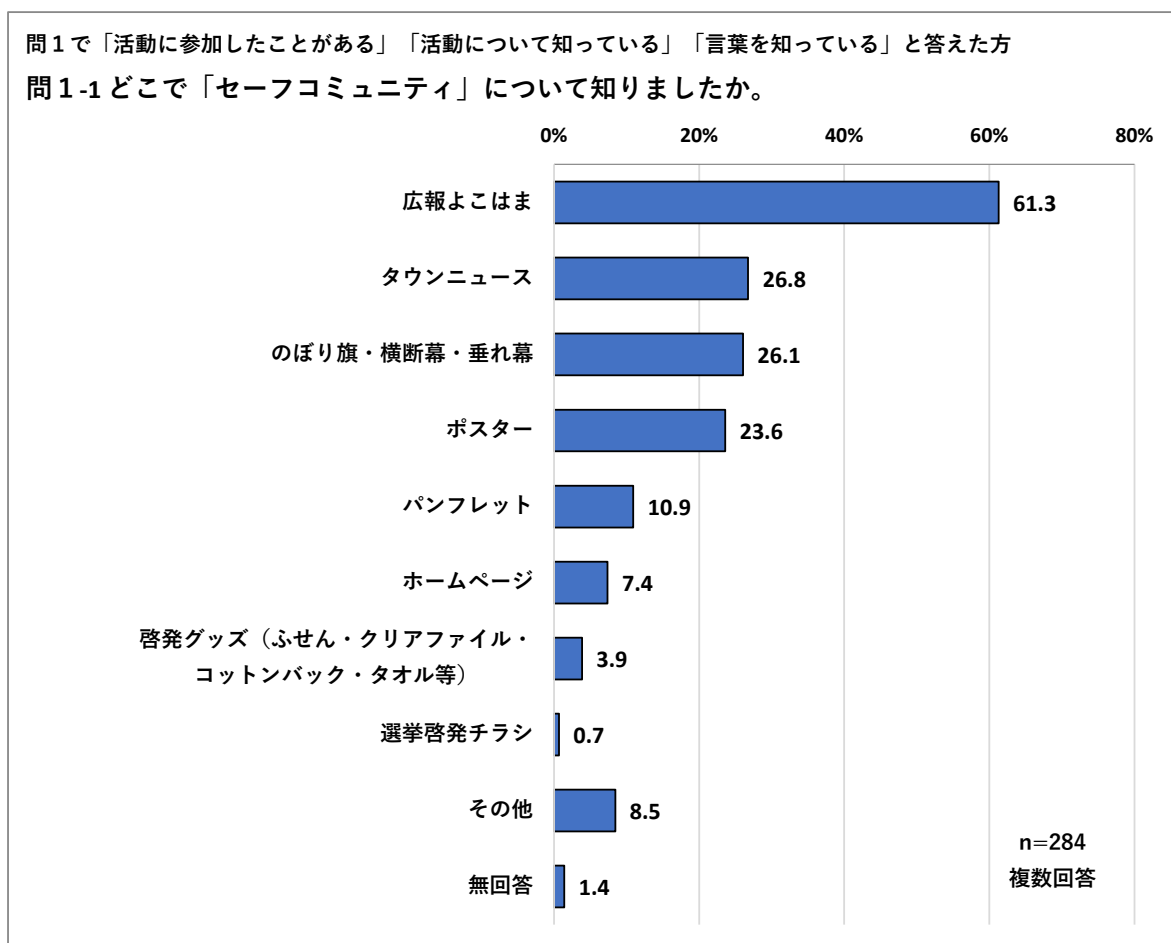
(1) セーフコミュニティの認知度別 安全・安心への実感：セーフコミュニティを認知しているの方が
栄区は安心・安全なまちだと感じている割合が高い

セーフコミュニティの認知度と体感治安の相関については、「セーフコミュニティについて全く知らない」方よりも、「活動に参加したことがある」「活動を知っている」「言葉を知っている」の方が、「栄区は安全・安心なまちだと感じますか」という問いに対し「そう感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した割合が高いという結果になった。



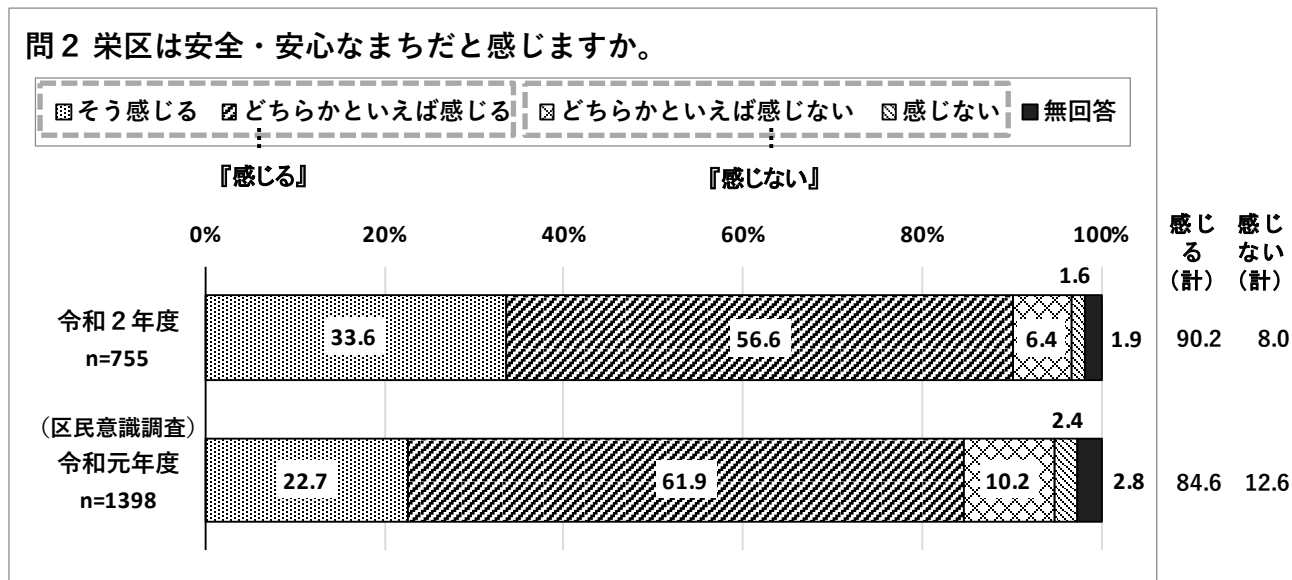
(1-1) セーフコミュニティを知った媒体：セーフコミュニティを知った媒体は「広報よこはま」が最も多い

「広報よこはま」が 61.3%で最も多く、「タウンニュース」(26.8%)、「のぼり旗・横断幕・垂れ幕」(26.1%)、「ポスター」(23.6%)の順で続く。



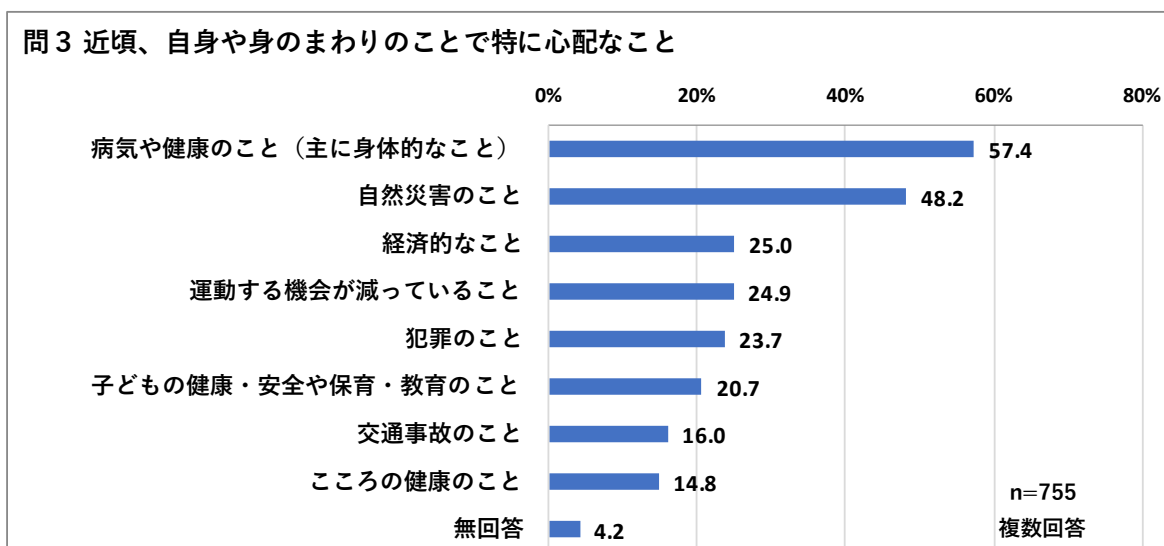
(2) **安全・安心への実感：9割の区民が栄区を安全・安心なまちだと感じている**

栄区が安全・安心なまちだと感じるかどうかについて「そう感じる」「どちらかといえば感じる」を合わせた『感じる』方が90.2%、「どちらかといえば感じない」「感じない」を合わせた『感じない』方が8.0%となっており、約9割の区民が安全・安心なまちだと感じている。令和元年度調査と比べると『感じる』割合が5.6ポイント増加している。



(3) **身のまわりの心配なこと：約6割の区民が「病気や健康のこと」を特に心配なことに挙げている**

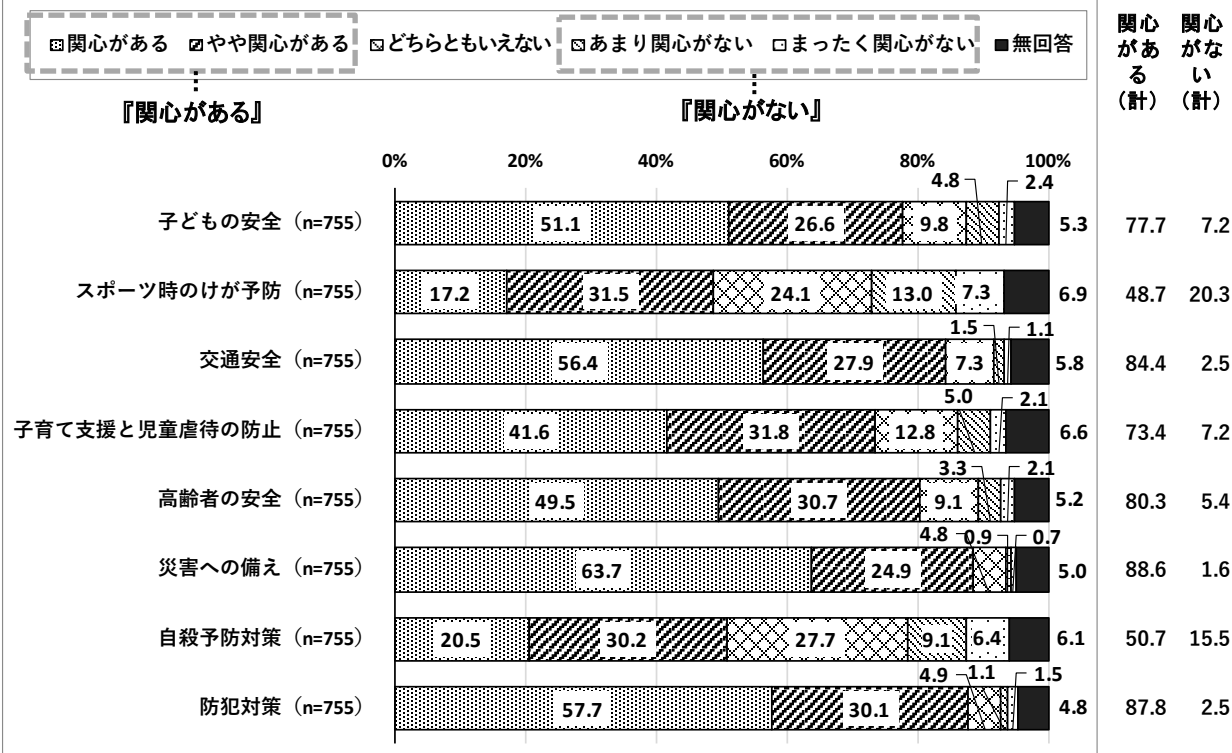
身のまわりの心配なことは、「病気や健康のこと(主に身体的なこと)」が57.4%で最も多く、「自然災害のこと」(48.2%)の順で続く。



(4) セーフコミュニティの重点取組への関心：災害への備え、防犯対策、交通安全、高齢者の安全に高い関心が寄せられる一方、スポーツ時のけが予防への関心は比較的低い

セーフコミュニティのそれぞれの重点取組への関心について、「関心がある」「やや関心がある」を合わせた『関心がある』は、「災害への備え」「防犯対策」「交通安全」「高齢者の安全」で8割以上なのに対し、「スポーツ時のけが予防」では5割以下となっている。

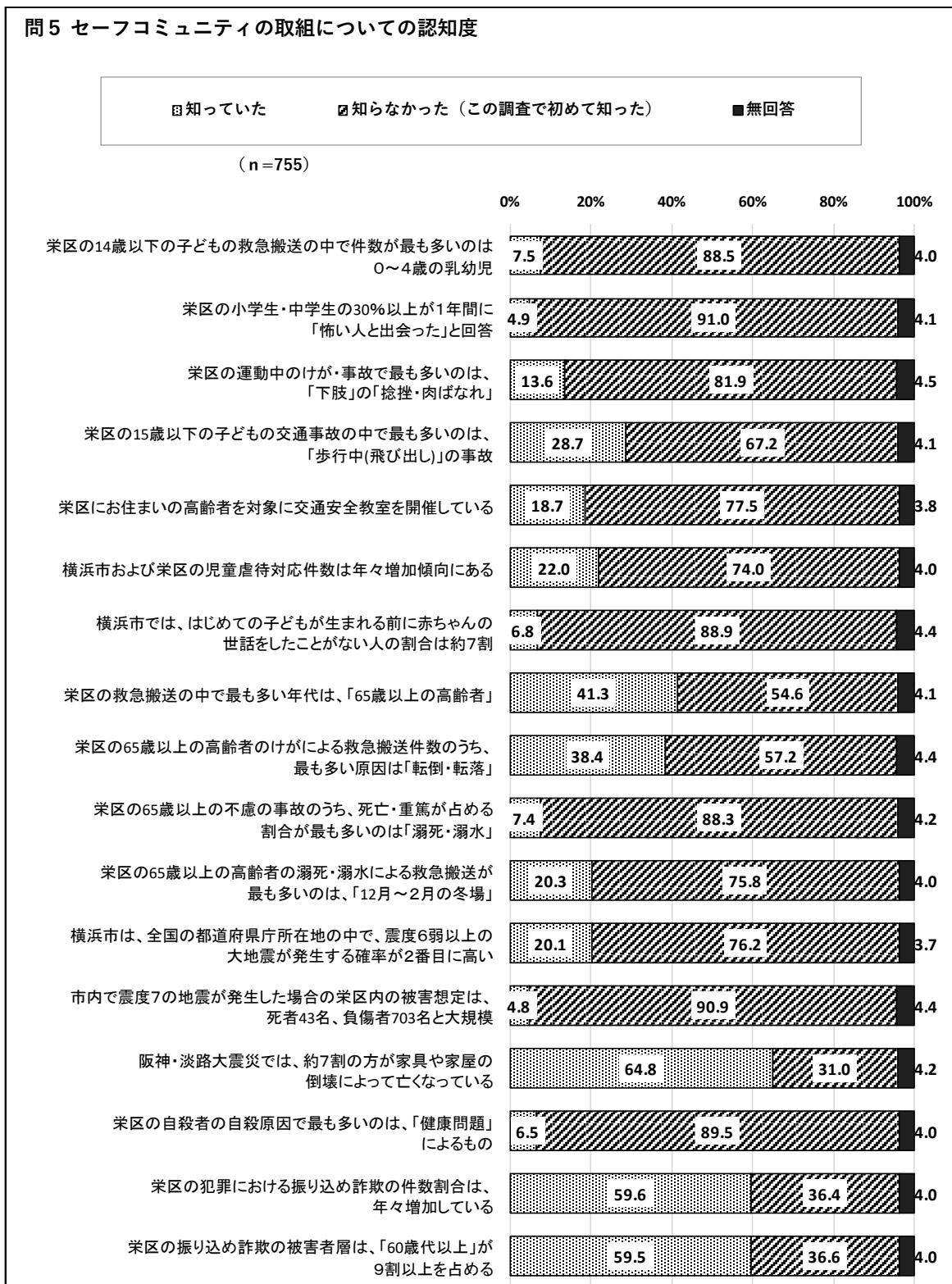
問4 セーフコミュニティの重点取組への関心



【2 日常生活におけるけが・事故の危険性】

(5) けが・事故の危険性の認知度：阪神・淡路大震災時の被害状況、振り込め詐欺に関する危険性について知っている区民が6割前後

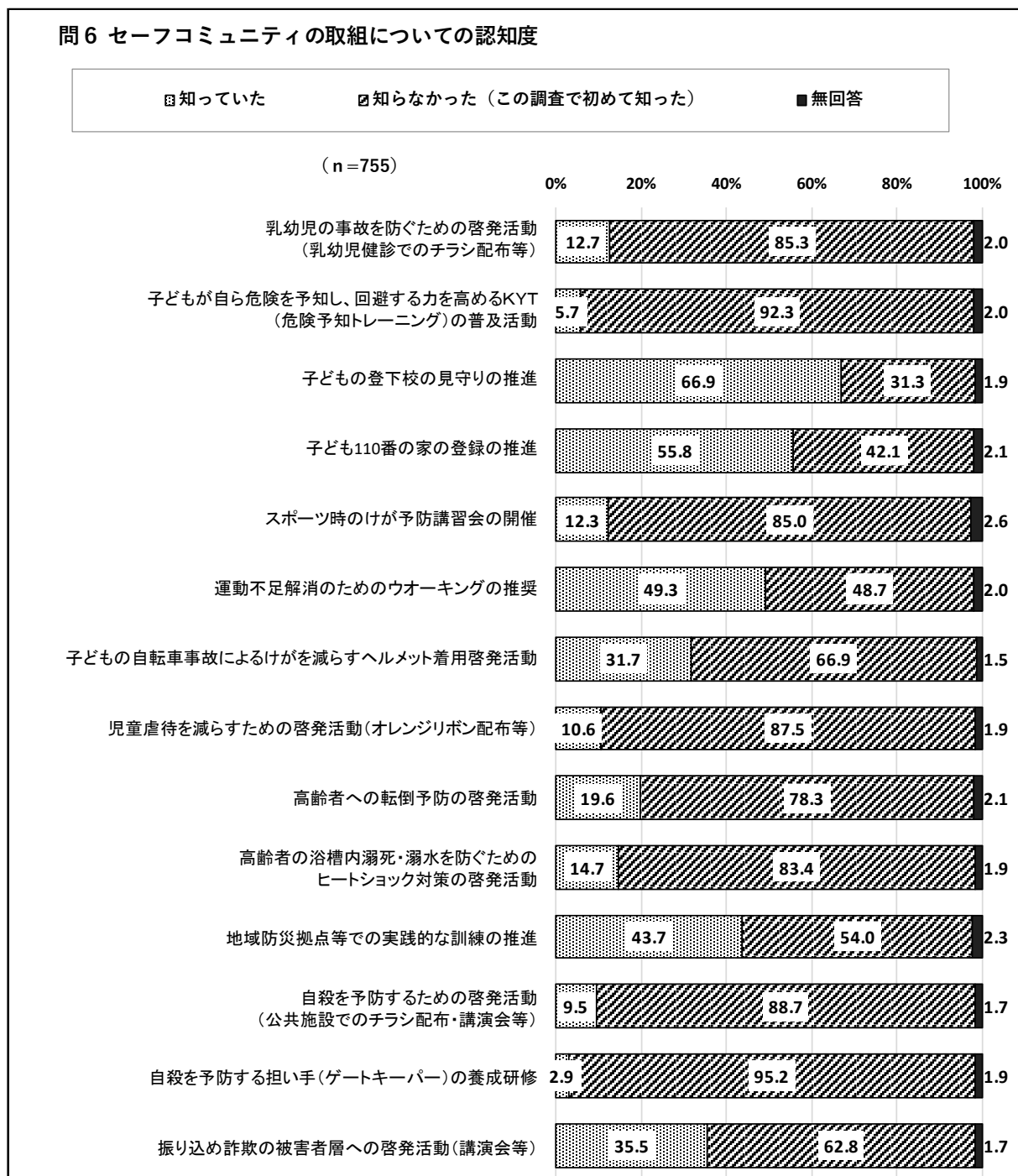
けが・事故の危険性について、阪神・淡路大震災では約7割の方が家具や家屋の倒壊でなくなっていることと振り込め詐欺に関する2問は「知っていた」方が6割前後と高い割合になった。その一方、「知らなかった」方が多いのは、栄区の小中学生の30%以上が1年間に「怖い人と出会った」と回答していることと、市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定についてで、共に9割以上と高い割合となっている。



【3 セーフコミュニティの取組】

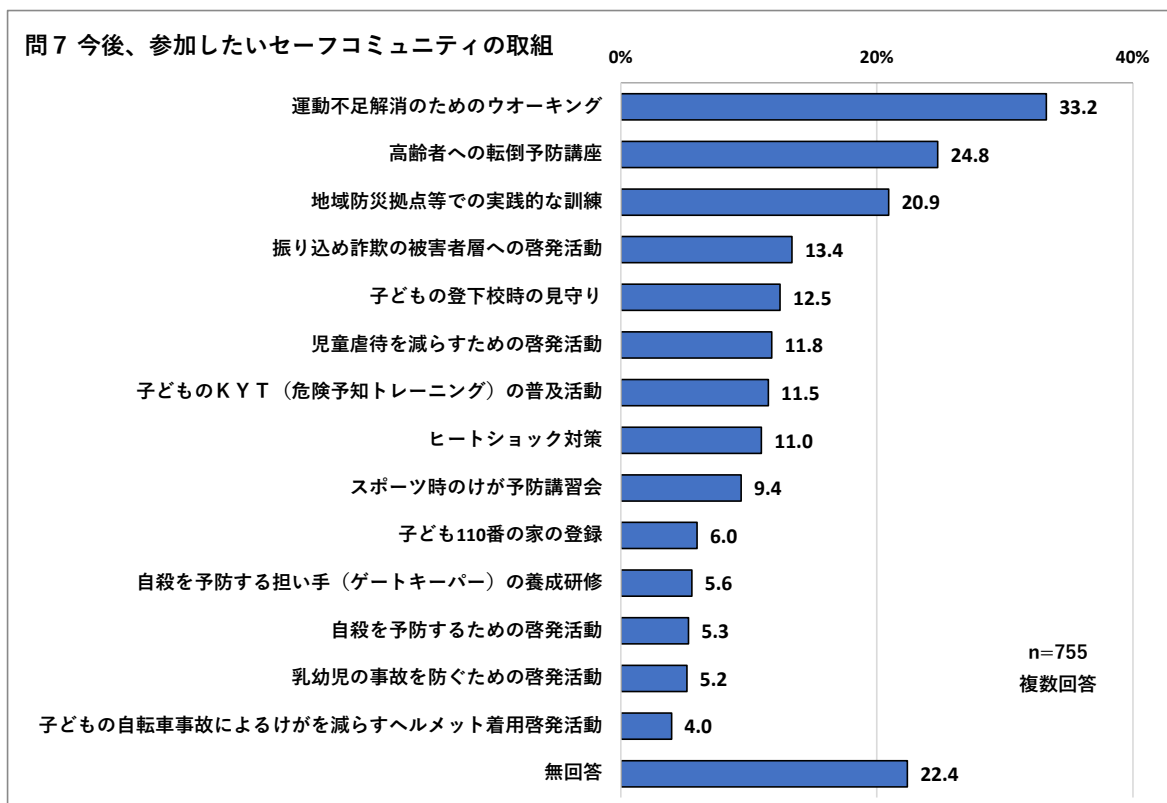
(6) けが・事故等の予防の取組についての認知度：「子どもの登下校の見守り」「子ども110番の家の登録」は知っていた区民が多い

セーフコミュニティの取組について「知っていた」割合は「子どもの登下校の見守りの推進」が66.9%で最も多く、次いで「子ども110番の家の登録の推進」(55.8%)、「運動不足解消のためのウォーキングの推奨」(49.3%)の順となっている。その一方、「自殺を予防する担い手(ゲートキーパー)の養成研修」「子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高めるKYT(危険予知トレーニング)の普及活動」を「知らなかった」割合は9割以上となっている。



(7) 参加したいセーフコミュニティの取組：今後、最も参加したい取組は「運動不足解消のためのウォーキング」

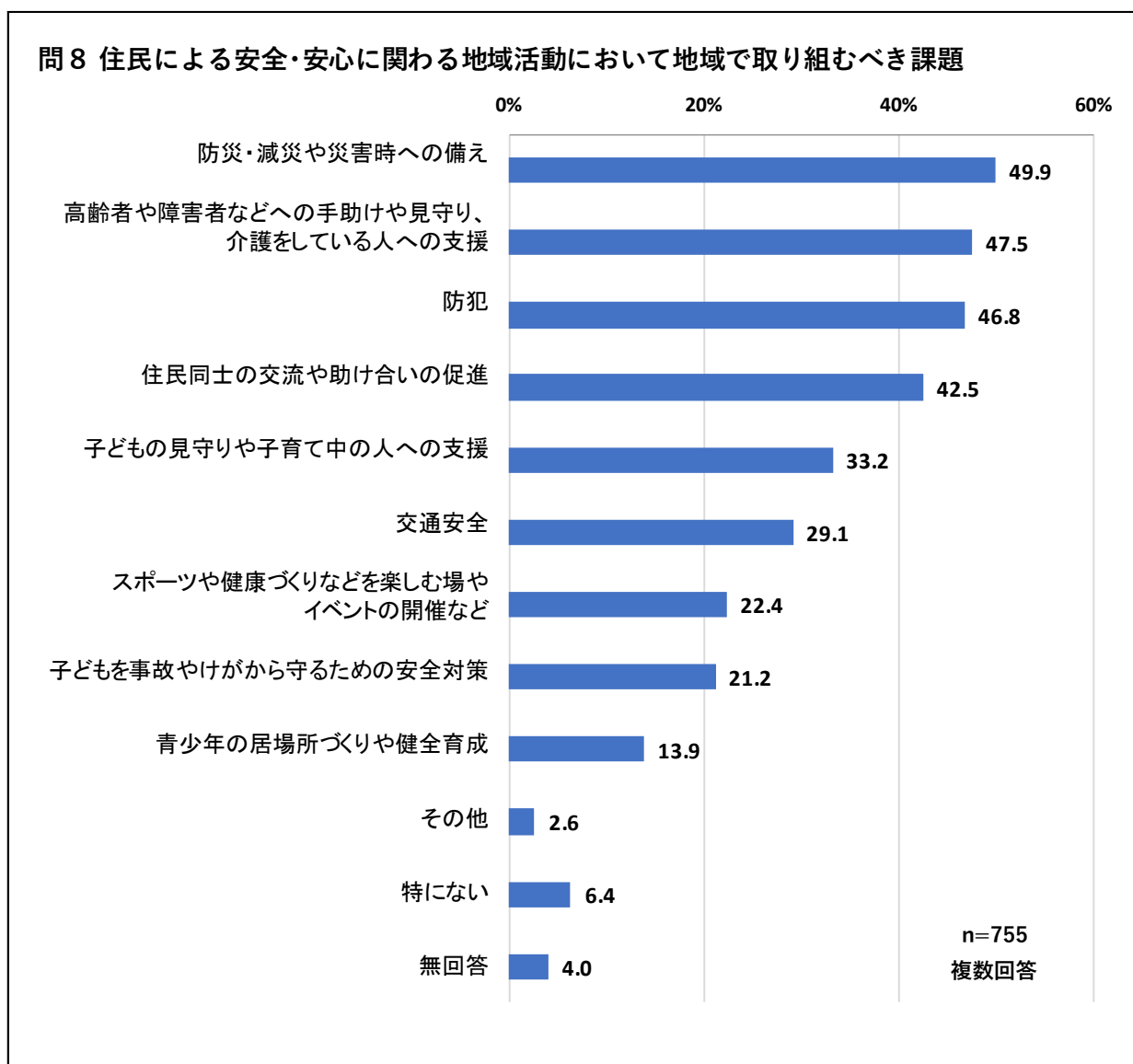
「運動不足解消のためのウォーキング」が 33.2%で最も多く、次いで「高齢者への転倒予防講座」(24.8%)、「地域防災拠点等での実践的な訓練」(20.9%)、「振り込め詐欺の被害者層への啓発活動」(13.4%)の順である。一方、「子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動」を挙げた方は5%未満である。



【4 安全・安心に関する質問】

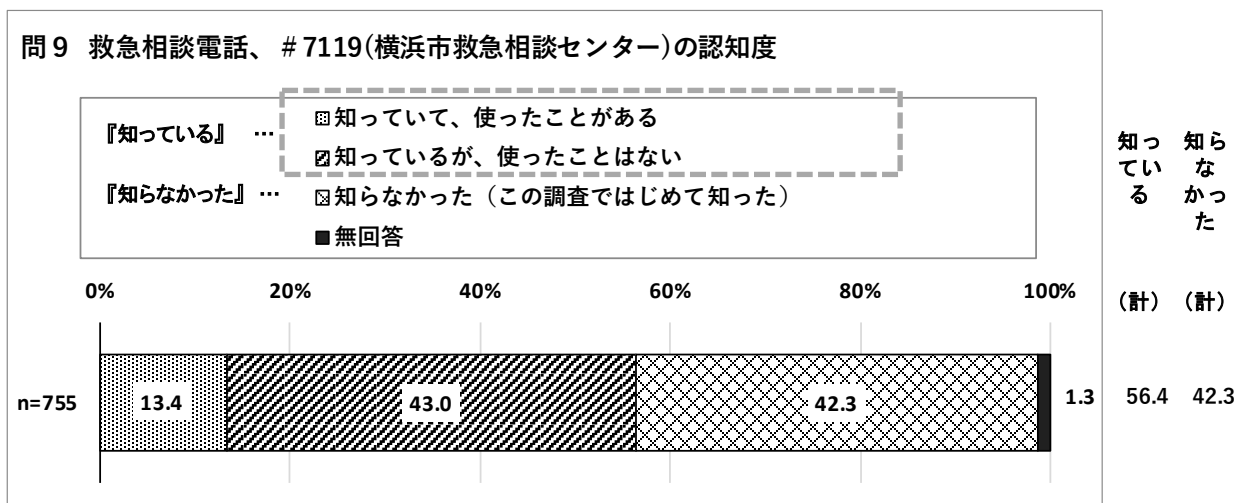
(8) 地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動：最も地域で取り組むべき課題は「防災・減災や災害時への備え」

住民による安全・安心に関わる地域活動において地域で取り組むべき課題で最も多く挙げられたのは「防災・減災や災害時への備え」で 49.9%、次いで「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」(47.5%)、「防犯」(46.8%)、「住民同士の交流や助け合いの促進」(42.5%)の順となっている。一方、「青少年の居場所づくりや健全育成」を挙げた方は2割以下となっている。



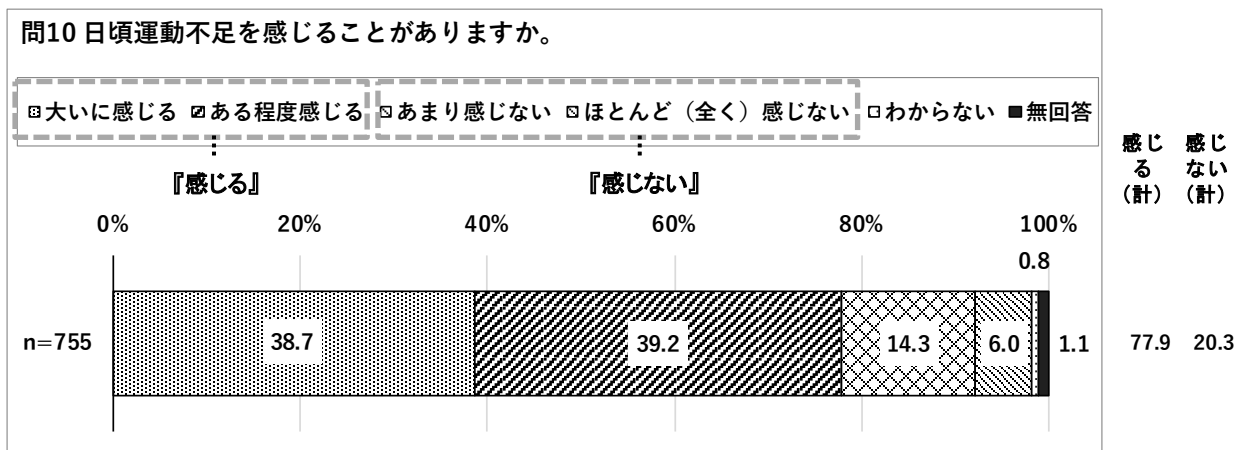
(9) **救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)の認知度：1割の区民は使ったことがあり、「知っているが使ったことはない」を合わせると5割以上の区民が認知している**

「知っている、使ったことがある」「知っているが、使ったことはない」を合わせた『知っている』割合は56.4%である。また、「使ったことがある」方は13.4%である。一方、「知らなかった（この調査ではじめて知った）」方は42.3%となっている。



(10) **運動不足の実感：7割以上の区民が日頃運動不足だと感じている**

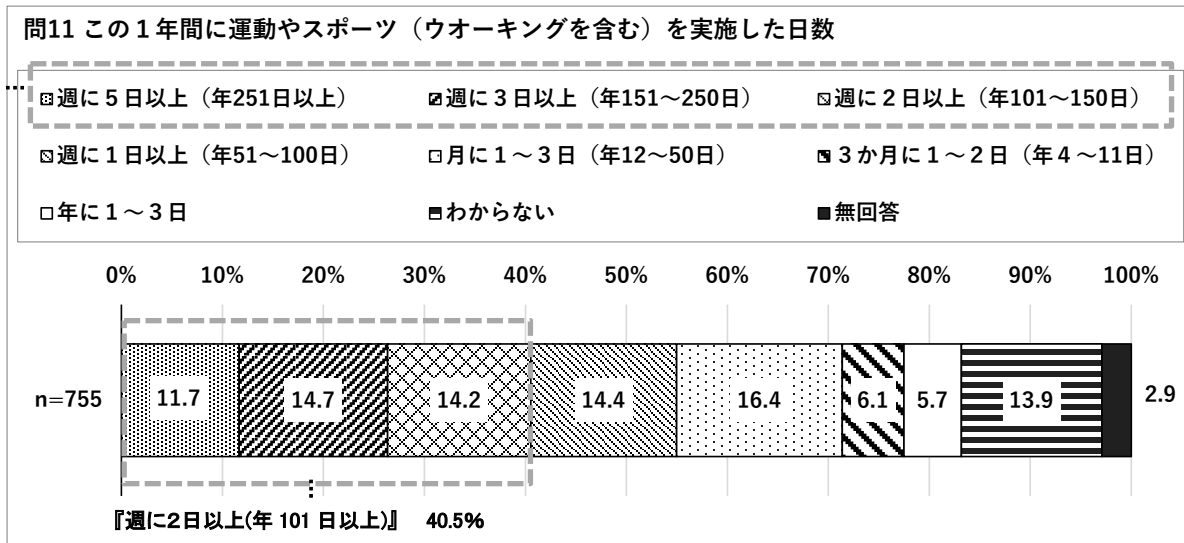
日頃運動不足を感じるかどうかについて「大いに感じる」「ある程度感じる」を合わせた『感じる』方が77.9%、「あまり感じない」「ほとんど(全く)感じない」を合わせた『感じない』方が20.3%となっており、7割以上の区民が日頃運動不足だと感じている。



(11) スポーツをする頻度：約4割の区民が、週2日以上スポーツをしている

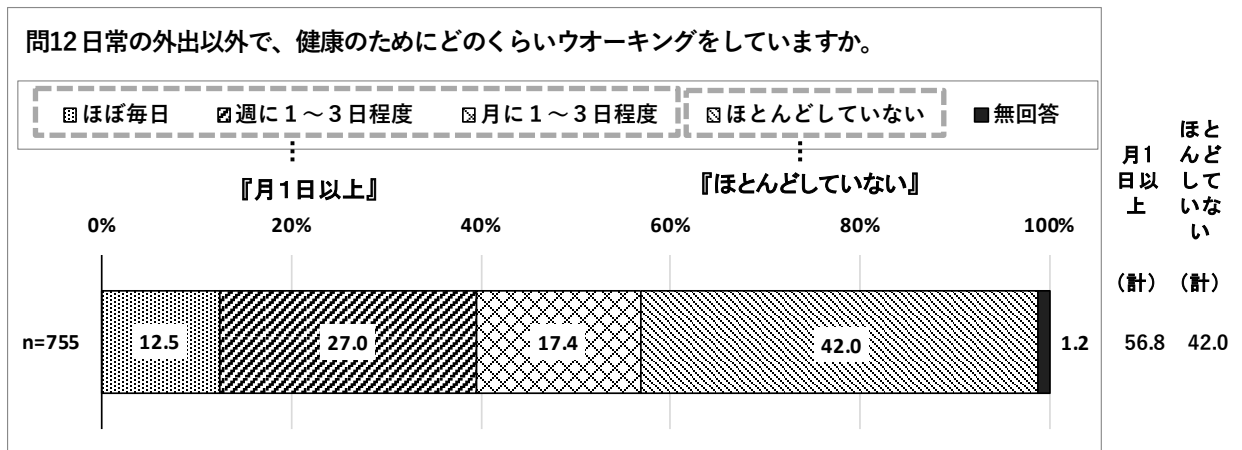
スポーツをする頻度については「月に1～3日（年12～50日）」と回答した方が16.4%で最も多い。また、『週1日以上』スポーツをしている方は55.0%、『月1日以上』スポーツをしている方は71.4%となっている。全体的に各自それぞれにあった頻度でスポーツをしている傾向が見られる。

『週に2日以上
(年101日以上)』



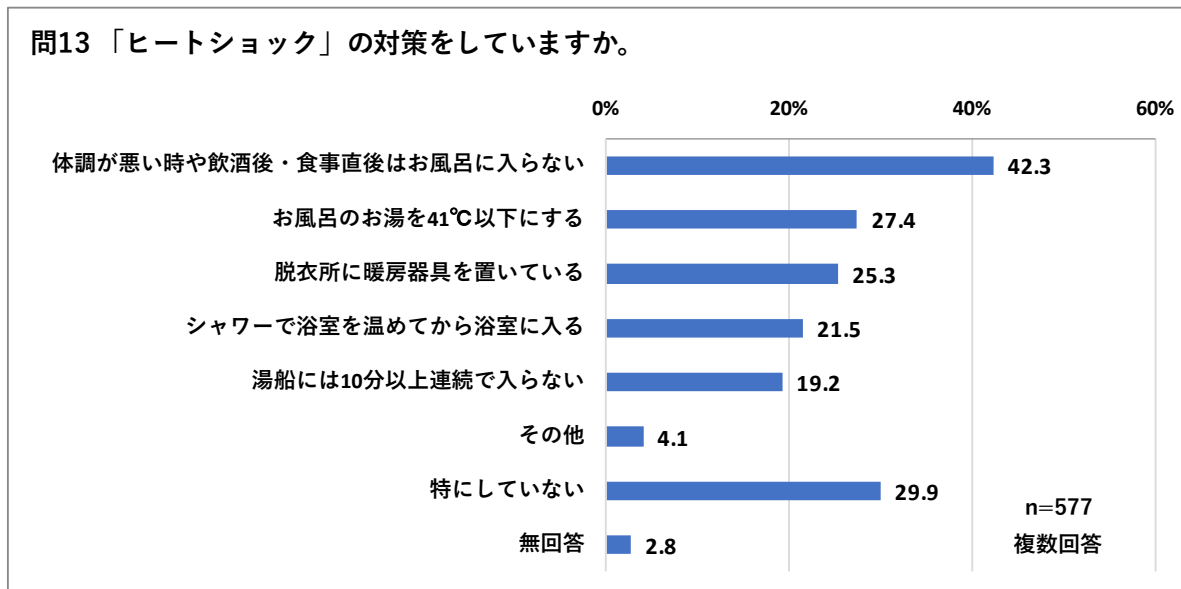
(12) ウォーキングをする頻度：5割以上の区民が、月に1日程度以上ウォーキングをしている

日常の外出以外で、健康のためにどのくらいウォーキングをしているかについては、「ほぼ毎日」「週に1～3日程度」「月に1～3日程度」を合わせた『月に1日以上』の方は56.8%、「ほとんどしていない」方が42.0%と5割以上の区民が月1日以上ウォーキングをしている。



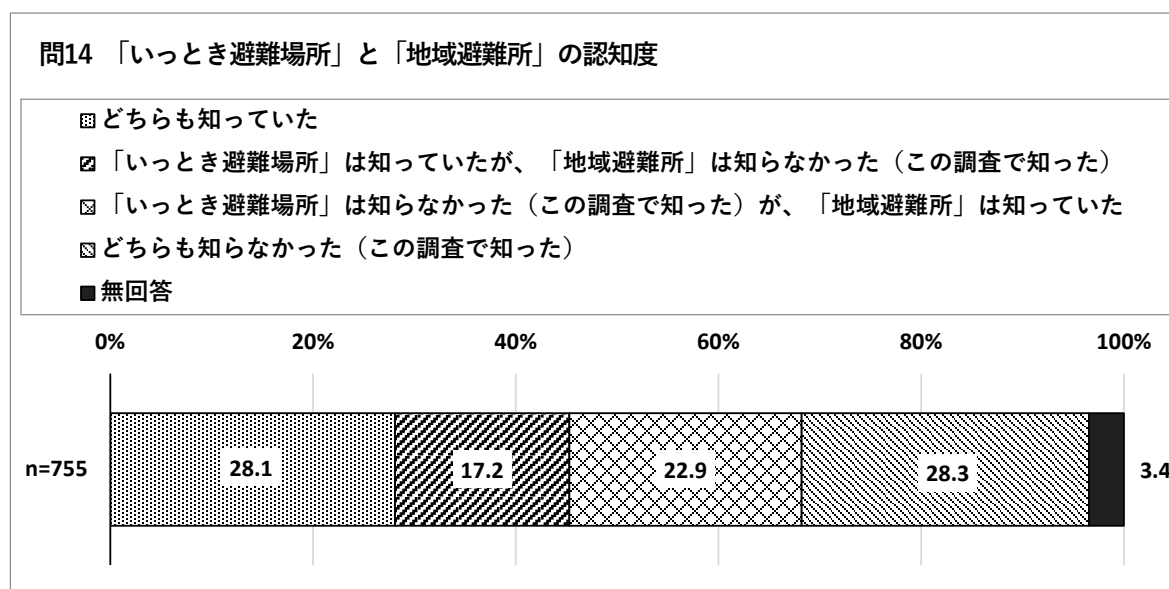
(13) 「ヒートショック」の対策：4割以上の区民が体調の悪い時や飲酒後・食事直後はお風呂に入らない事を実践している一方、約3割の区民は特に対策をしていない

区民が行っている「ヒートショック」の対策については、「体調が悪い時や飲酒後・食事直後はお風呂に入らない」が42.3%で最も多く、次いで「お風呂のお湯を41℃以下にする」(27.4%)、「脱衣所に暖房器具を置いている」(25.3%)の順である、一方、「特にしていない」は29.9%となっている。



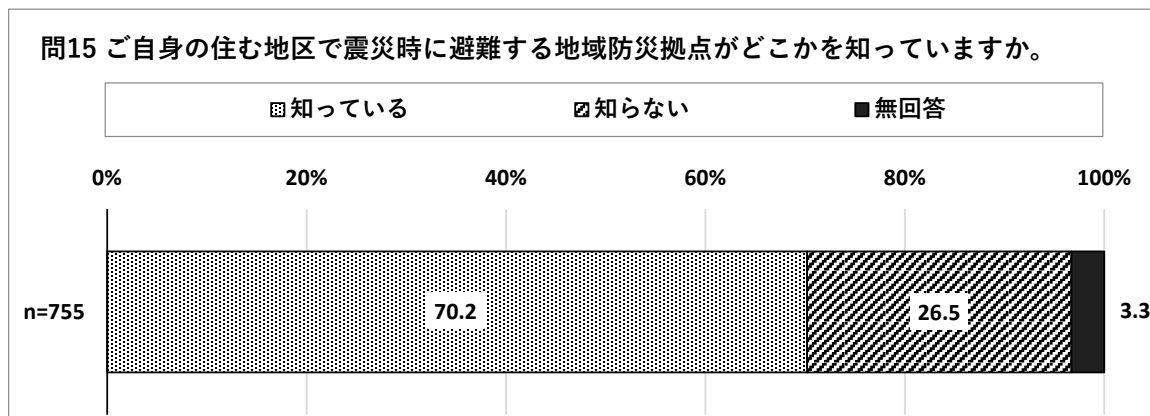
(14) いっとき避難場所と地域避難所の認知度：いっとき避難場所と地域避難所をどちらも知っている区民は約3割

いっとき避難場所と地域避難所の認知度については、「どちらも知っていた」と「どちらも知らなかった(この調査で知った)」が28.1%と28.3%で拮抗している。また、「いっとき避難場所」のみ知っている方は17.2%、「地域避難所」のみ知っている方は22.9%と「地域避難所」の方が「いっとき避難場所」より5.7ポイント知っている方が多くなっている。



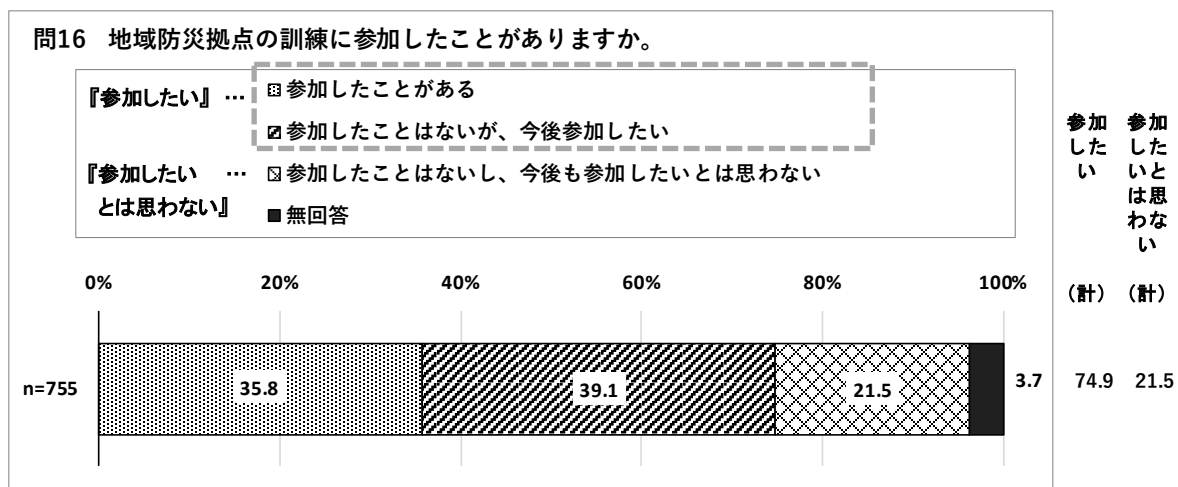
(15) **地域防災拠点の認知度：地区で震災時に避難する地域防災拠点を知っている区民は7割**

地区で震災時に避難する地域防災拠点を「知っている」方が 70.2%と、「知らない」方を大きく上回っている。



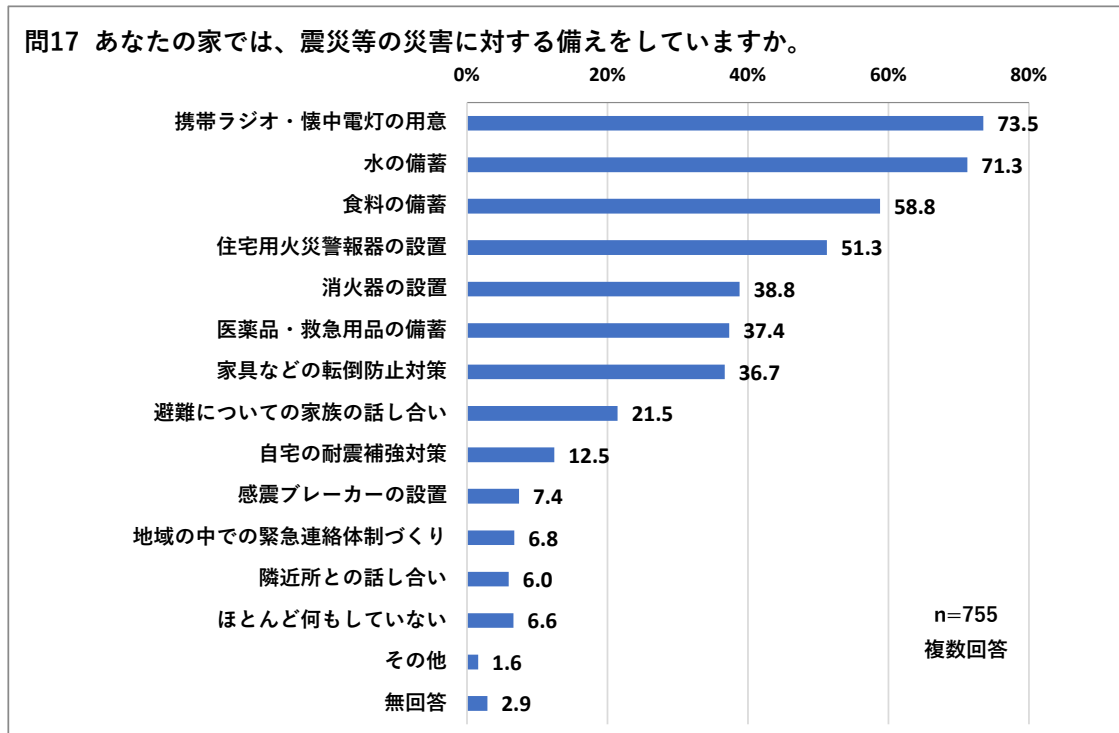
(16) **地域防災拠点の訓練に参加したことがある割合：7割以上の区民が地域防災拠点の訓練に積極的に参加する意思を持っている**

地域防災拠点の訓練に「参加したことがある」「参加したことはないが、今後参加したい」を合わせた『参加したい』の割合は 74.9%となっており、7割以上の区民が地域防災拠点の訓練に参加したことがある、もしくは参加する意思がある。



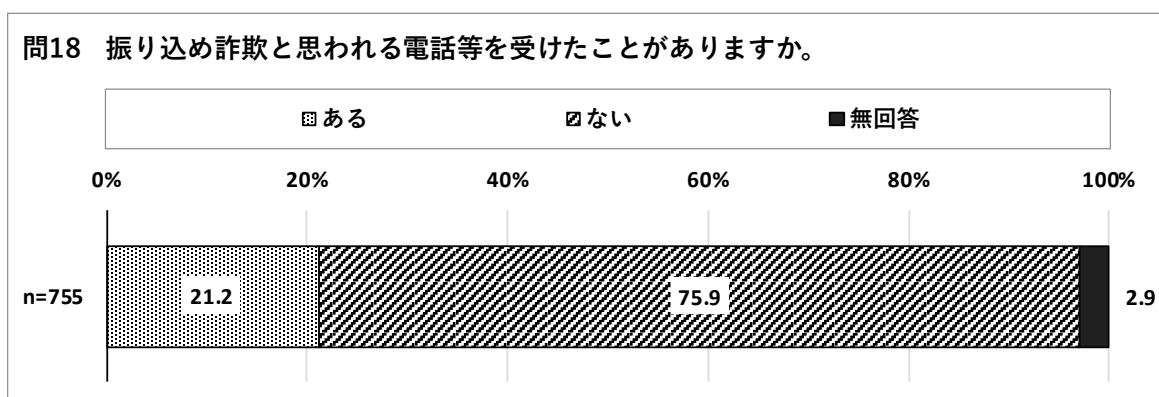
(17) 震災等の災害に対する備え：7割以上で「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」と「水の備蓄」がされている一方、ほとんど何もしていないのは1割以下

区民が行っている震災等の災害に対する備えについては「携帯ラジオ・懐中電灯の用意」が73.5%で最も多く、次いで「水の備蓄」(71.3%)、「食料の備蓄」(58.8%)、「住宅用火災警報器の設置」(51.3%)の順になっている。一方、「ほとんど何もしていない」は6.6%となっている。



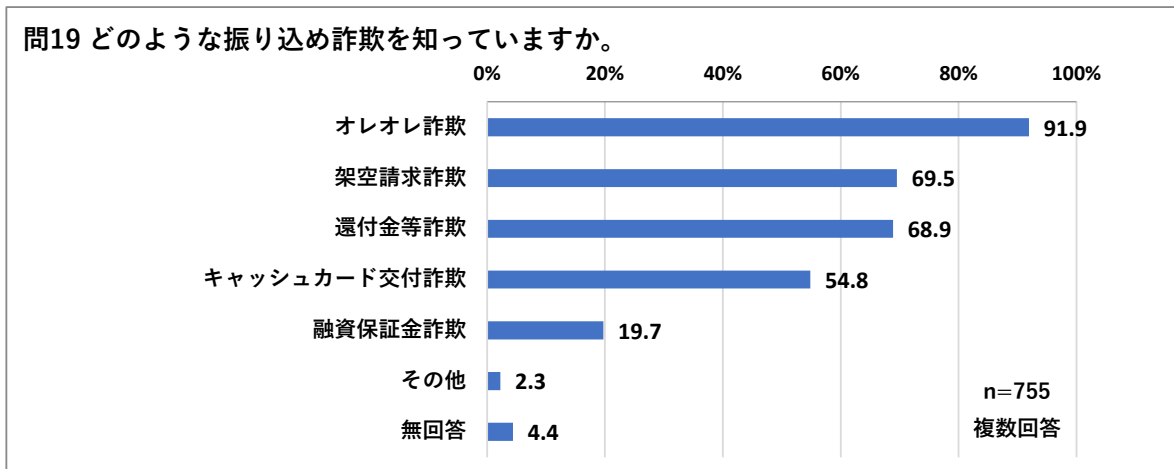
(18) 振り込め詐欺の受電経験の有無：約2割の区民が振り込め詐欺と思われる電話を受けたことがある

振り込め詐欺と思われる電話を受けたことがある区民は21.2%になっている。



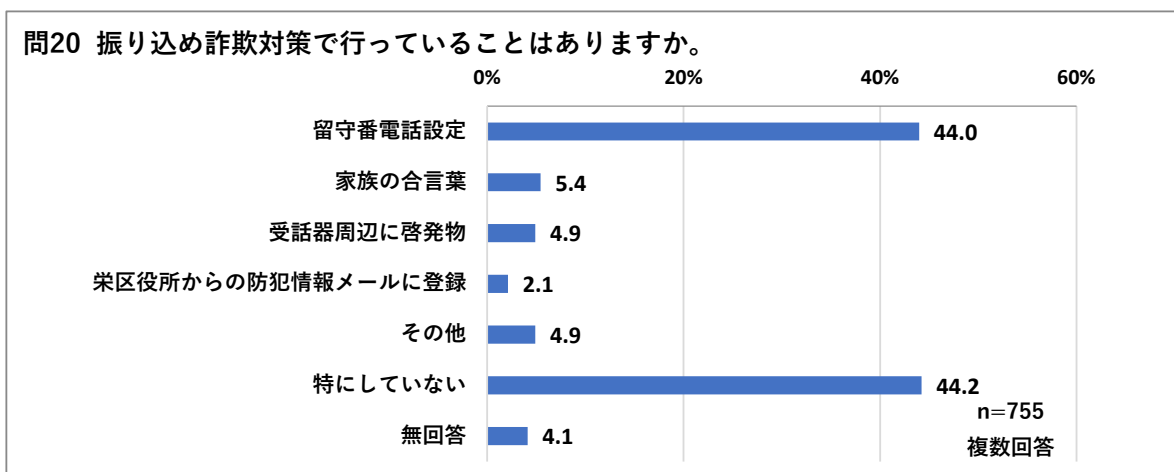
(19) 知っている振り込め詐欺：知っている振り込め詐欺で最も多いのは「オレオレ詐欺」

知っている振り込め詐欺で最も多く挙げられたのは「オレオレ詐欺」が91.9%、次いで「架空請求詐欺」(69.5%)、「還付金等詐欺」(68.9%)の順となっている。



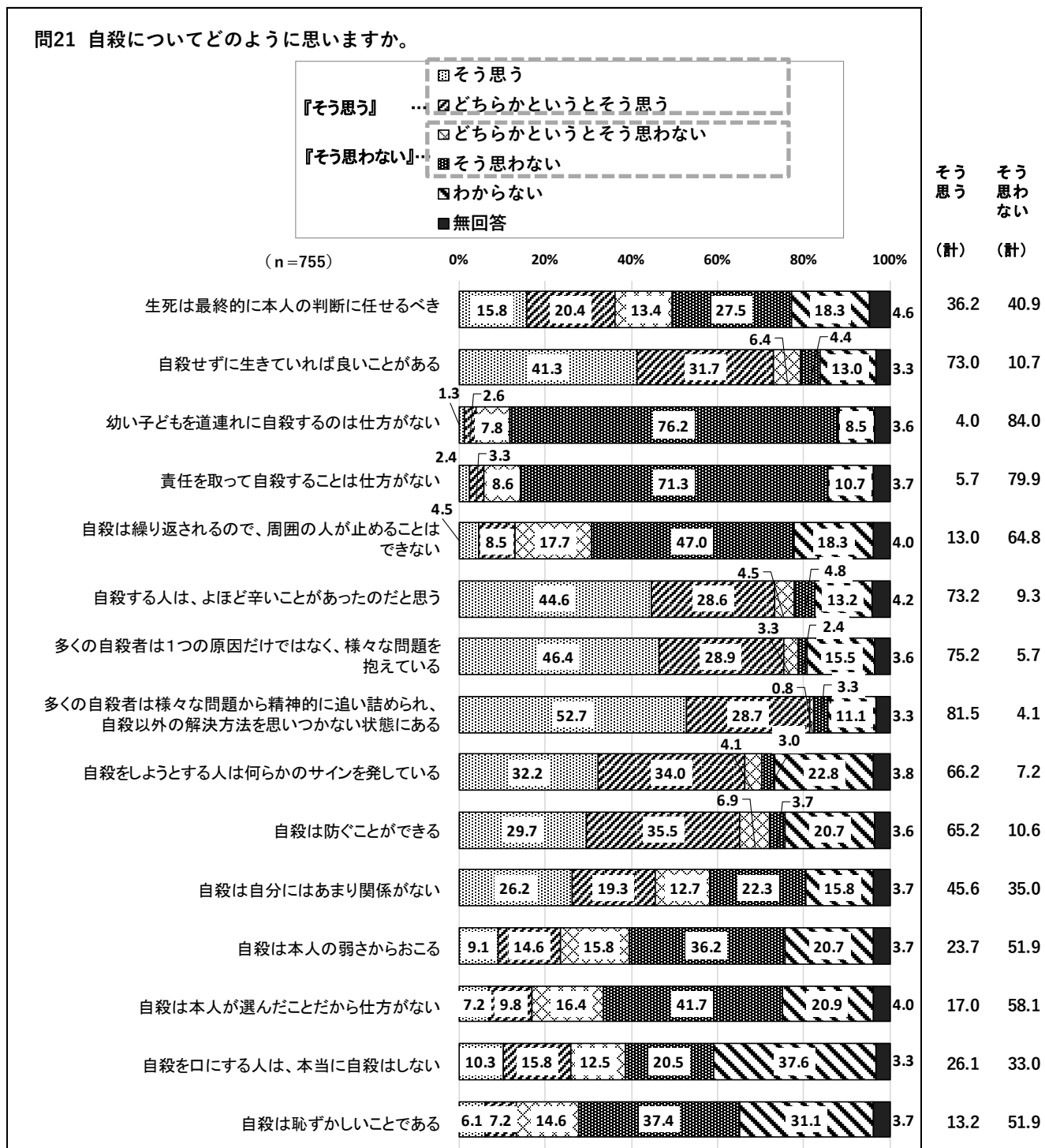
(20) 行っている振り込め詐欺対策：振り込め詐欺対策として「留守番電話設定」を区民の約4割が行っている一方、特に対策をしていない区民も約4割

行っている振り込め詐欺対策については、「留守番電話設定」が44.0%、次いで「家族の合言葉」(5.4%)、「受話器周辺に啓発物」(4.9%)の順となっている一方、「特にしていない」が44.2%となっている。



(21) 自殺についての考え方：「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」と考える区民の割合が高い

「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」は「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『そう思う』方が8割以上、「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方ない」「責任を取って自殺することは仕方ない」は「そう思わない」と「どちらかというと思わない」を合わせた『そう思わない』方が約8割と高い割合になっている。



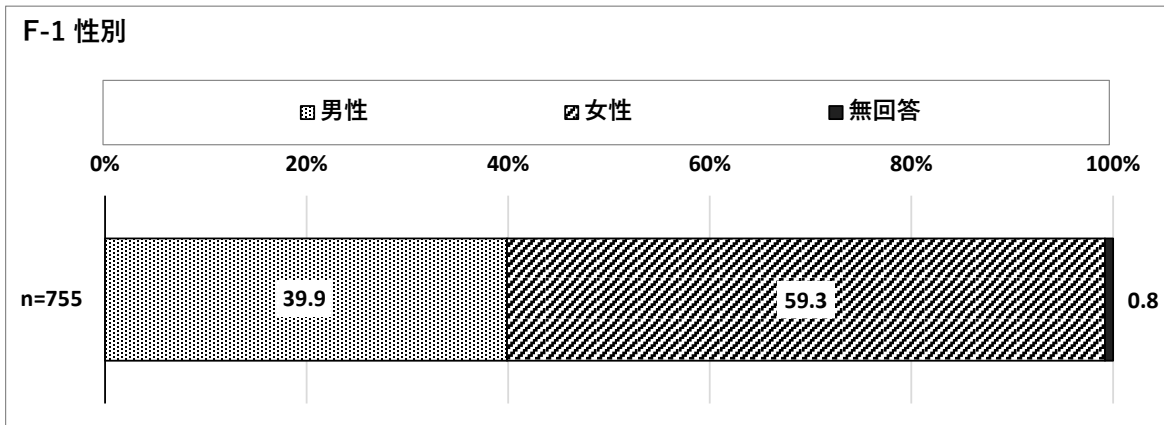
(22) セーフコミュニティについてのご意見やご要望

セーフコミュニティについてのご意見やご要望に関する自由記述欄には、全部で 83 件（11.0%）の回答があった。

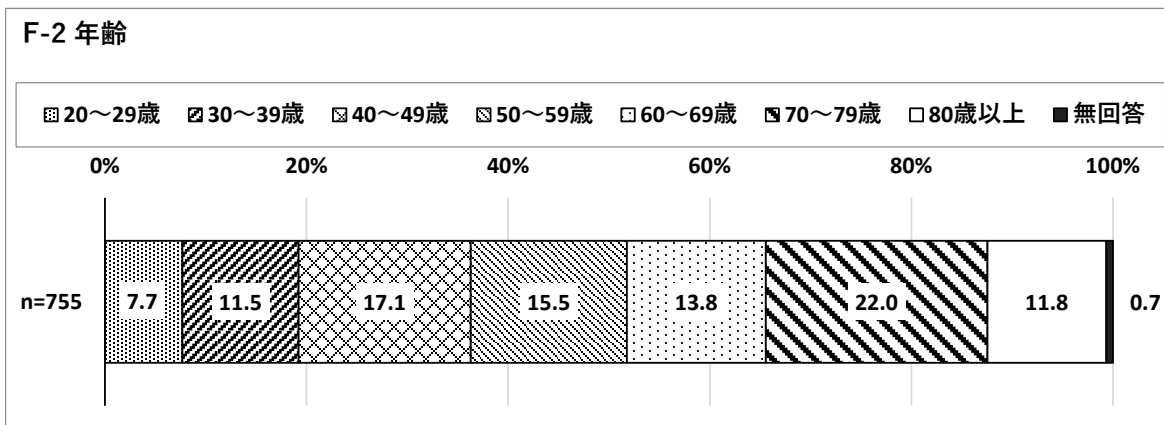
意見の種類	件数	主な意見内容
感想	39	<ul style="list-style-type: none"> ・命のある限り、安心安全な生活が大切 ・今迄、あまり考えていなかった事ですが、生活や生きていく上で重要な事ばかりですね。もっと身近なものにしたいと感じました。 ・具体的に…とは、すぐに思いつきませんが、より良い栄区になってくれるよう、よろしく願います。私も微力ながら、協力できることには参加して行きたいと思います。 ・このアンケートで、くわしくセーフコミュニティについて知ることができました。少なからず、本当に必要な所に支援が届いていないと思う事があります。このような活動が進んで、本当に必要なところに支援の届くようになってもらえたら良いと思います。 ・この取組みに協力頂いている方々に感謝しています。コロナで近所との接する機会が減っていますが、安全にお互いが気軽に助け合えるように、コロナ時代の顔の見える近所付き合いを再開してほしいです。 ・質問事項が具体的にとてもおどろいた。地域でのとりくみは取りくむのも受けるのも少し距離感を感じるのとそれがなくなるといいなと思う。 ・#7119やいじめ相談などの電話相談を利用したことがあります全く役に立たない。全ての電話相談の対応する方の知識や判断力の低さを感じた。（もっと親身になれないのか？）知識の向上が必要だと思う。 ・心が弱っている時に誰かと話したい…と思った人が気軽に話せる電話や場所については、講習を受けた年配者（ボランティア）をお願いしては？時間のある高齢者は多いはず。 ・栄区は元気なご年配の方が多く住んでいらっしゃるイメージです。是非ともSCの取組みに積極的に参加頂いて、安心安全なコミュニティ作りにご協力頂きたいと感じています。そうする事で彼ら彼女ら自身の健康にも繋がると感じます。
プロモーション（広報）	16	<ul style="list-style-type: none"> ・栄区民の認知度は低いと思うので、もっと知らせるべきだと思います。改めて栄区は素晴らしい所だと思います。 ・恥ずかしながら、「栄区で」取り組まれているものをあまり知らなかった。（国としての取り組みならニュースで見ると耳にするから区となると難しい…） ・大切なお仕事、積極的な広報をお願いします。 ・デジタル化希望 ・8つの分野で形成されていますが、1つ1つに強化週間など重点的にやっては、どうでしょうか。あと、セーフコミュニティの周知徹底が十分ではない。もっと積極的にPRした方が良いです。 ・現在は、地区の回覧板でしか情報を得ることができていないため、セーフコミュニティについても回覧でお知らせをいただけるとありがたいです。 ・高齢者の多い栄区で「セーフコミュニティ」がイメージつかないのでは？日本語で「安全な町づくり」のような何かがあった方が、理解認知されそう。 ・取り組み活動の方向や実施計画の作成とフォローと広報活動で具体的に報告してほしい。 ・数年前、突然「栄区がセーフコミュニティ宣言した」と知ったが、何の事か不明だった。言葉だけが一人歩きし、区民にも少しわかり易い方法、内容で伝える必要があるのではと感じました。様々な安全、安心にとりくみ、より良い地域で暮らす為の「セーフコミュニティさかえ」であることを今回再認識しました。
生活の安心・安全	10	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに顔のみえる関係づくりを築いていく必要があると思います。 ・自殺や虐待の増加は貧富の格差が拡大しているためと思う。消費税の撤廃や累進課税を強化すべきと思う。生活が安定すれば安全性も高まると思う。 ・若い世代の移住、定住を促す対策を実施して欲しい。高齢者が多く近所で助け合いを勧められるのは負担が大きい。企業誘致による財政確保して、住民の安全を強化して欲しい。 ・子供が歩くのに危険な所が沢山あると思います。空家が火災になったりして危険だと思います。皆が安心安全で住みやすい町作りをしてほしいです。 ・核家族化がすすみ、高齢者さえも超個人主義者が増えたのを感じます。（あいさつさえしない）いざという時や異常を察知するために人とのつながり、地域はみんなで作って支え合うという意識を再び呼びおこせないでしょうか？知り合い以外はしりません！という人があまりに多いです。さみしいかなしいです。 ・いたち川周辺がものすごくきついです。（特に天神橋のバス停～富士スーパー裏ずっと）栄区のシンボルなのですらかきれいにして欲しいです。 ・栄区は、横浜市内でも高齢者が多く将来の展望が明るくなった地域であるが、都市計画による若がえり政策がみえてこない。東上郷町などは限界集落への道を進んでいるように思える。
災害への備え	5	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに川があり、大きな橋や道路があり、災害などで避難所が近くにあったとしても、行けない、マンションの屋上へ行ける様にして欲しい。 ・近くに逃げられる公園等はなく、区の違う所にある公園の方が近い。 ・地域避難所と地域防災拠点（公立小学校？）、広域防災拠点（山手学院？）の使い方の違いがよくわからない。 ・地震の震度発表で栄区がでてこない。早く発表されるようにしたい。 ・ハザードマップの普及と今後起こりうるであろう大地震などの対策の普及といったハードだけでなく、ソフトの対策もすべき。
高齢者の安全	4	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を介護する側は孤立しがちです。自殺の事子供の事も大切ですが… ・当アンケートがどのように活用されるのかを知りたい。以前のアンケート調査結果は拝見したが、調査によって今後どのように変化対応しているのか、何を見たら分かるのかを知りたい。自由記述にあった意見や要望に対しての回答、対応策などが見えていない。スーパーの駐車場で、拳動のあやしい高齢運転者をよく見かける。送迎バスの運行等、企業努力だけに頼らずに、働きかけができないだろうか。 ・mustの考えではなく柔らかな考え方で、まず「話を聞いてもらう」「聞いてあげる」環境を作ってほしいです。高齢者の多い栄区だからこその大きい許容量の大きい、見守り隊を作ってほしいです。 ・亀井町に住んで50年以上になります。市バス等の市の交通とは無縁な交通の不便な所です。一度位交通の事に関して、真剣に考えてほしい。特に、先頃は、年老いた方が多くなり、バス停までも遠い。スローバスシステム（グリーンズスローモビリティ）実証調査等の検証など導入してほしい。坂道がきついため、年寄りには本當にきついです。
自殺予防対策	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺についての間、むずかしいです。思う所、多々ありますが、関係機関の横つながりでの取組み、たのもしく思います。 ・死を意識する事で生が充実する。無目的に生きるのではなく、どう死ぬか考える事で、過程としての生き方に意味を持たせる事につながる。
こどもの安全	2	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達には怪我や失敗を繰り返して欲しく育って欲しいですが取り返しがつかない怪我や失敗が無い様、遠くから見守って行ける社会を皆で創り出せたら良いなと思います。 ・子供の遊ぶ場所（外）がもっと必要だと思う
交通安全	2	<ul style="list-style-type: none"> ・夜道が暗いので街灯をつけてほしい。自転車専用レーンをつくってほしいです。震災時の備蓄品を事前に配付してほしい。 ・横浜南環状線の完成等による交通事故防止対策にも取組んでいただければと思います。
防犯対策	1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防犯連絡所の存在に付いてどの様な活動をしているのか。
子育て支援と虐待の防止	1	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待を減らす取り組みは、重要だと思うが、母親をまるで取り締まるような、監視して逃げ場がないような風潮を心苦しく思う。（その前にできるサポートがあるはず）自分も、母親が若く死んで、年子を一人で育てていたけど、周囲の人のサポートがもっともつとないと、子育てする人をまずは支援してくれるしくみが充実しないと苦しい。子育て中に主人の助けがなかったら（育休をとってくれた）、うつになっていたと思う。死にたくなかったかもしれない。
総計	83	

3 回答者の属性

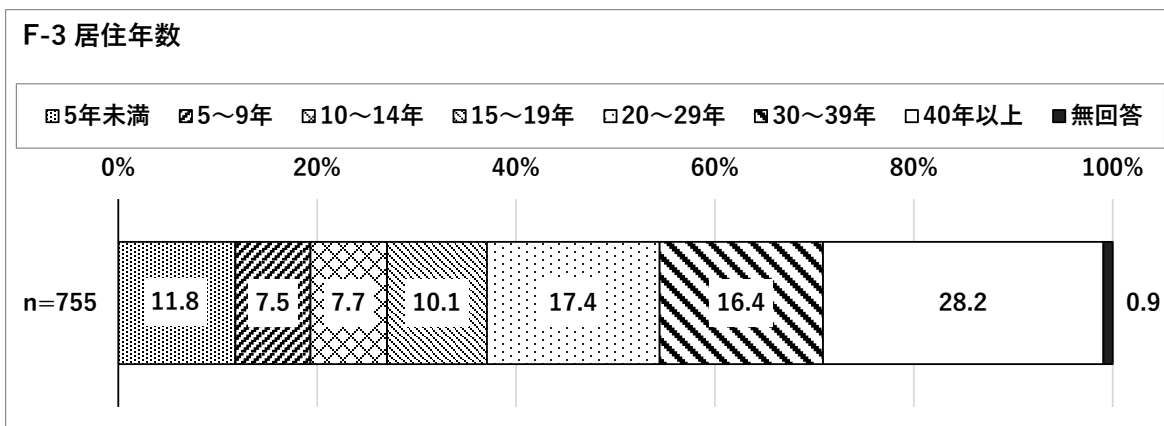
(1) 性別



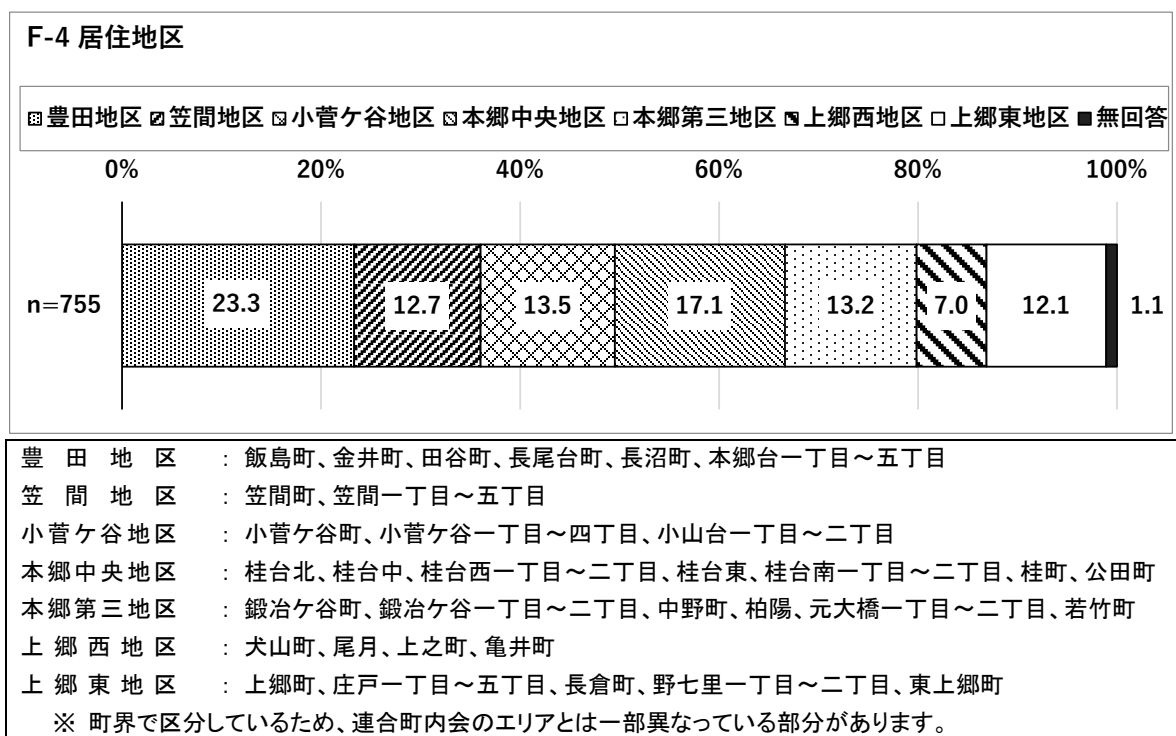
(2) 年齢



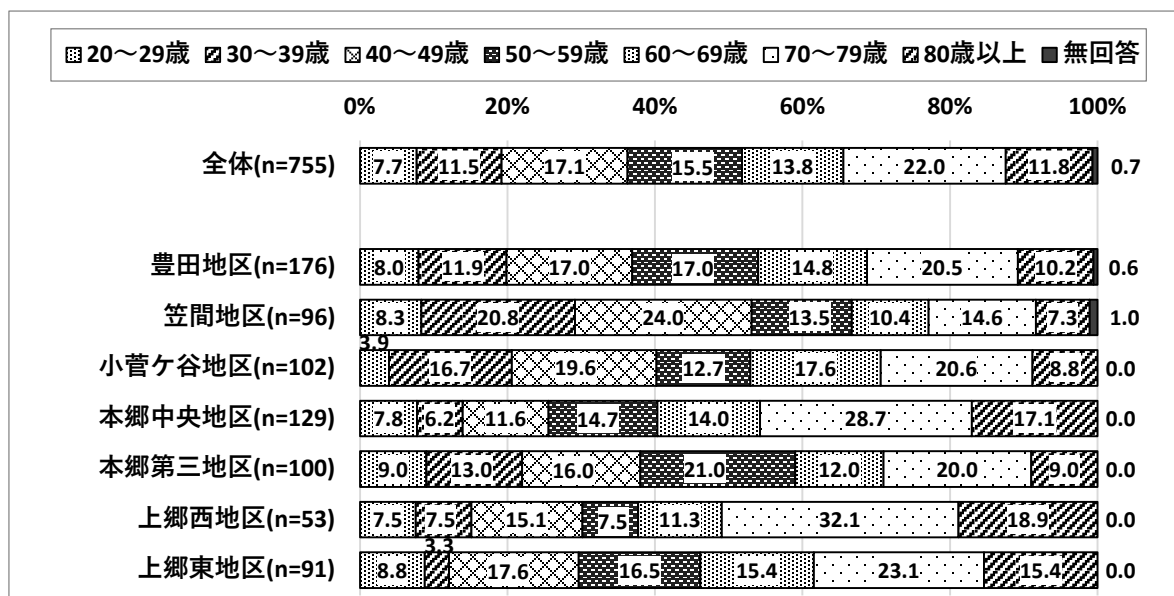
(3) 居住年数



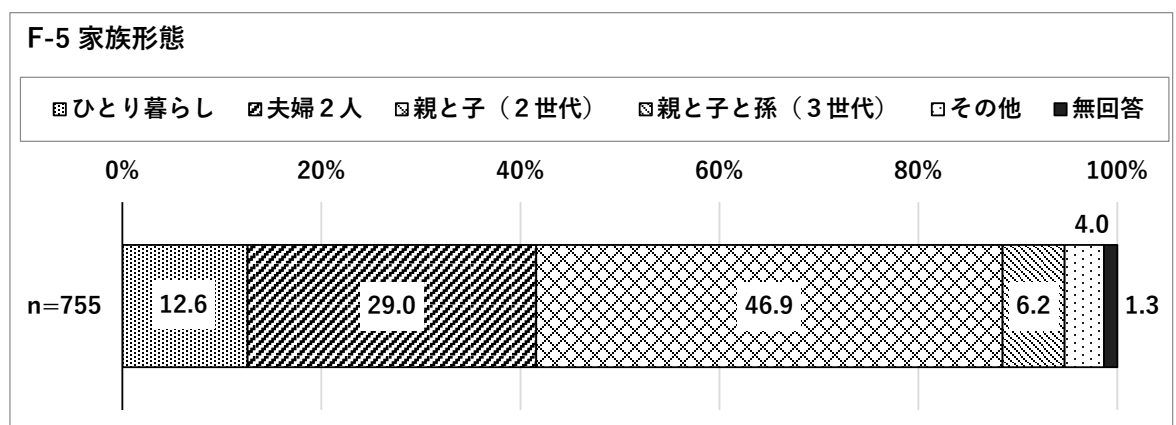
(4) 居住地区



【参考】居住地区別の年齢



(5) 家族形態



令和2年度栄区セーフコミュニティアンケート

同封の返信用封筒で令和2年11月25日(水)までにご投函ください

【1 セーフコミュニティ全体】

問1 あなたは、「セーフコミュニティ」について、どの程度知っていますか。(○は1つ)

- | |
|---------------------------------|
| 1 セーフコミュニティの活動に参加したことがある |
| 2 セーフコミュニティの活動について知っている |
| 3 セーフコミュニティという言葉を知っている・きいたことがある |
| 4 セーフコミュニティについて全く知らない |

(問1で「1」「2」「3」と答えた方にお聞きします)

問1-1 あなたは、どこで「セーフコミュニティ」について知りましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|---------------------------------------|
| 1 ポスター | 6 ホームページ |
| 2 のぼり旗・横断幕・垂れ幕 | 7 啓発グッズ
(ふせん・クリアファイル・コットンバック・タオル等) |
| 3 タウンニュース | 8パンフレット |
| 4 広報よこはま | 9 その他(具体的に) |
| 5 選挙啓発チラシ | |

問2 栄区は安全・安心なまちだと感じますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 そう感じる | 3 どちらかといえば感じない |
| 2 どちらかといえば感じる | 4 感じない |

問3 あなたは、近頃、ご自身や身のまわりのことで特に心配なことがありますか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1 病気や健康のこと(主に身体的なこと) | 5 交通事故のこと |
| 2 こころの健康のこと | 6 自然災害のこと |
| 3 子どもの健康・安全や保育・教育のこと | 7 犯罪のこと |
| 4 運動する機会が減っていること | 8 経済的なこと |

次頁以降の設問にもご回答ください

問4 あなたは、栄区がセーフコミュニティの重点取組として取り組んでいる以下の8分野について、それぞれの程度関心がありますか。(○はそれぞれ1つ)

	関心がある	やや関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	関心がない
1 子どもの安全	ア	イ	ウ	エ	オ
2 スポーツ時のけが予防	ア	イ	ウ	エ	オ
3 交通安全	ア	イ	ウ	エ	オ
4 子育て支援と児童虐待の防止	ア	イ	ウ	エ	オ
5 高齢者の安全	ア	イ	ウ	エ	オ
6 災害への備え	ア	イ	ウ	エ	オ
7 自殺予防対策	ア	イ	ウ	エ	オ
8 防犯対策	ア	イ	ウ	エ	オ

【2 日常生活におけるけが・事故の危険性】

問5 栄区は、セーフコミュニティに取り組むことで、日常生活におけるけが・事故等の予防活動を進めています。あなたは、それぞれのけが・事故の危険性について知っていますか。(○はそれぞれ1つ)

	知っていた	知らなかった (この調査で初めて知った)
1 栄区の14歳以下の子どもの救急搬送の中で、件数が最も多いのは0～4歳の乳幼児である	ア	イ
2 栄区の小学生・中学生の30%以上が、1年間に「怖い人と出会った」と回答している	ア	イ
3 栄区の運動中のけが・事故で最も多いのは、「下肢」の「捻挫・肉ばなれ」である。	ア	イ
4 栄区の15歳以下の子どもの交通事故の中で最も多いのは、「歩行中(飛び出し)」の事故である。	ア	イ
5 栄区にお住まいの高齢者を対象に交通安全教室を開催している	ア	イ

	知っていた	知らなかった (この調査で初めて知った)
6 横浜市および栄区の児童虐待対応件数は年々増加傾向にある	ア	イ
7 横浜市では、はじめての子どもが生まれる前に赤ちゃんの世話をしたことがない人の割合は約7割である	ア	イ
8 栄区の救急搬送の中で最も多い年代は、「65歳以上の高齢者」である	ア	イ
9 栄区の65歳以上の高齢者のけがによる救急搬送件数のうち、最も多い原因は「転倒・転落」である	ア	イ
10 栄区の65歳以上の不慮の事故のうち、死亡・重篤が占める割合が最も多いのは「溺死・溺水」である	ア	イ
11 栄区の65歳以上の高齢者の溺死・溺水による救急搬送が最も多いのは、「12月～2月の冬場」である	ア	イ
12 横浜市は、全国の都道府県庁所在地の中で、震度6弱以上の大地震が発生する確率が2番目に高い	ア	イ
13 市内で震度7の地震が発生した場合の栄区内の被害想定は、死者43名、負傷者703名と大規模である	ア	イ
14 阪神・淡路大震災では、約7割の方が家具や家屋の倒壊によって亡くなっている	ア	イ
15 栄区の自殺者の自殺原因で最も多いのは、「健康問題」によるものである	ア	イ
16 栄区の犯罪における振り込め詐欺の件数割合は、年々増加している	ア	イ
17 栄区の振り込め詐欺の被害者層は、「60歳代以上」が9割以上を占める	ア	イ

【3 セーフコミュニティの取組】

問6 栄区は、けが・事故等の予防のために、様々な取組を行っています。あなたは、それぞれの取組について知っていますか。(○はそれぞれ1つ)

	知っていた	知らなかった (この調査で初めて知った)
1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動 (乳幼児健診でのチラシ配布等)	ア	イ
2 子どもが自ら危険を予知し、回避する力を高める KYT (危険予知トレーニング) の普及活動	ア	イ
3 子どもの登下校の見守りの推進	ア	イ
4 子ども110番の家の登録の推進	ア	イ
5 スポーツ時のけが予防講習会の開催	ア	イ
6 運動不足解消のためのウォーキングの推奨	ア	イ
7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット 着用啓発活動	ア	イ
8 児童虐待を減らすための啓発活動 (オレンジリボン配布等)	ア	イ
9 高齢者への転倒予防の啓発活動	ア	イ
10 高齢者の浴槽内溺死・溺水を防ぐための ヒートショック対策の啓発活動	ア	イ
11 地域防災拠点等での実践的な訓練の推進	ア	イ
12 自殺を予防するための啓発活動 (公共施設でのチラシ配布・講演会等)	ア	イ
13 自殺を予防する担い手 (ゲートキーパー) の養成研修	ア	イ
14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動 (講演会等)	ア	イ

問7 セーフコミュニティの取組の中で、今後参加したい取組はありますか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1 乳幼児の事故を防ぐための啓発活動 | 8 児童虐待を減らすための啓発活動 |
| 2 子どものKYT (危険予知トレーニング)の普及活動 | 9 高齢者への転倒予防講座 |
| 3 子どもの登下校時の見守り | 10 ヒートショック対策 |
| 4 子ども110番の家の登録 | 11 地域防災拠点等での実践的な訓練 |
| 5 スポーツ時のけが予防講習会 | 12 自殺を予防するための啓発活動 |
| 6 運動不足解消のためのウォーキング | 13 自殺を予防する担い手(ゲートキーパー)の養成研修 |
| 7 子どもの自転車事故によるけがを減らすヘルメット着用啓発活動 | 14 振り込め詐欺の被害者層への啓発活動 |

【4 安全・安心に関する質問】

問8 栄区では、住民により、安全・安心に関わる地域活動が進められています。あなたのお住まいの地域で、取り組むべき課題にはどのようなものがあると思いますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|-----------------------------------|------|-----------------|
| 1 住民同士の交流や助け合いの促進 | | |
| 2 高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援 | | |
| 3 子どもの見守りや子育て中の人への支援 | | |
| 4 子どもを事故やけがから守るための安全対策 | | |
| 5 青少年の居場所づくりや健全育成 | | |
| 6 スポーツや健康づくりなどを楽しむ場やイベントの開催など | | |
| 7 交通安全 | 8 防犯 | 9 防災・減災や災害時への備え |
| 10 その他(具体的に) | | |
| 11 特になし | | |

問9 あなたは、救急車を呼ぶか迷ったときの救急相談電話、#7119(横浜市救急相談センター)を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1 知っていて、使ったことがある | 3 知らなかった(この調査ではじめて知った) |
| 2 知っているが、使ったことはない | |

問10 あなたは、普段、運動不足を感じますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------|----------------|
| 1 大いに感じる | 4 ほとんど(全く)感じない |
| 2 ある程度感じる | 5 わからない |
| 3 あまり感じない | |

問11 この1年間に運動やスポーツ(ウォーキングを含む)を実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 週に5日以上(年251日以上) | 5 月に1~3日(年12~50日) |
| 2 週に3日以上(年151~250日) | 6 3か月に1~2日(年4~11日) |
| 3 週に2日以上(年101~150日) | 7 年に1~3日 |
| 4 週に1日以上(年51~100日) | 8 わからない |

問12 栄区では、「ウォーキングで健康づくり」の取組を進めています。あなたは、日常の外出以外で、健康のためにどのくらいの頻度でウォーキングをしていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 ほぼ毎日 | 3 月に1~3日程度 |
| 2 週に1~3日程度 | 4 ほとんどしていない |

問 13 栄区では、寒い時期に脱衣所から熱い湯船に入ることによって脳出血や脳梗塞、心筋梗塞等を起こしてしまう「ヒートショック」の対策に取り組んでいます。あなたは、「ヒートショック」の対策をしていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 お風呂のお湯を41℃以下にする | 5 体調が悪い時や飲酒后・食事直後はお風呂に入らない |
| 2 脱衣所に暖房器具を置いている | 6 その他 |
| 3 シャワーで浴室を温めてから浴室に入る | (具体的に) |
| 4 湯船には10分以上連続で入らない | 7 特にしていない |

問 14 あなたは、大地震などの発災初期に一時的に避難する「いっとき避難場所」と、短期間の避難生活を送るために地域の方が開設する「地域避難所※」を知っていますか。(○は1つ)

※「地域避難所」は栄区独自の取組です

- | |
|--|
| 1 どちらも知っていた |
| 2 「いっとき避難場所」は知っていたが、「地域避難所」は知らなかった(この調査で知った) |
| 3 「いっとき避難場所」は知らなかった(この調査で知った)が、「地域避難所」は知っていた |
| 4 どちらも知らなかった(この調査で知った) |

問 15 あなたは、ご自身の住む地区で震災時に避難する地域防災拠点がどこかを知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問 16 あなたは、地域防災拠点の訓練に参加したことがありますか。(○は1つ)

- | |
|-----------------------------|
| 1 参加したことがある |
| 2 参加したことはないが、今後参加したい |
| 3 参加したことはないし、今後も参加したいとは思わない |

問 17 あなたの家では、震災等の災害に対する備えをしていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 水の備蓄 | 9 感震ブレーカーの設置 |
| 2 食料の備蓄 | 10 避難についての家族の話し合い |
| 3 医薬品・救急用品の備蓄 | 11 隣近所との話し合い |
| 4 携帯ラジオ・懐中電灯の用意 | 12 地域の中での緊急連絡体制づくり |
| 5 消火器の設置 | 13 ほとんど何もしていない |
| 6 住宅用火災警報器の設置 | 14 その他 |
| 7 家具などの転倒防止対策 | (具体的に) |
| 8 自宅の耐震補強対策 | |

問 18 あなたは、振り込め詐欺と思われる電話等を受けたことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

問 19 あなたは、どのような振り込め詐欺を知っていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------|----------------|
| 1 オレオレ詐欺 | 4 還付金等詐欺 |
| 2 架空請求詐欺 | 5 キャッシュカード交付詐欺 |
| 3 融資保証金詐欺 | 6 その他(具体的に) |

問 20 あなたが、振り込め詐欺対策で行っていることはありますか。(○はいくつでも)

1 留守番電話設定	4 栄区役所からの防犯情報メールに登録
2 家族の合言葉	5 その他(具体的に)
3 受話器周辺に啓発物	6 特にしていない

問 21 あなたは、自殺についてどのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	そう思う どちらかという と	そう思わない どちらかという と	そう思わない	わからない
1 生死は最終的に本人の判断に任せるべき	ア	イ	ウ	エ	オ
2 自殺せずに生きていれば良いことがある	ア	イ	ウ	エ	オ
3 幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方がない	ア	イ	ウ	エ	オ
4 責任を取って自殺することは仕方がない	ア	イ	ウ	エ	オ
5 自殺は繰り返されるので、周囲の人が止めることはできない	ア	イ	ウ	エ	オ
6 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う	ア	イ	ウ	エ	オ
7 多くの自殺者は1つの原因だけではなく、様々な問題を抱えている	ア	イ	ウ	エ	オ
8 多くの自殺者は様々な問題から精神的に追い詰められ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある	ア	イ	ウ	エ	オ
9 自殺をしようとする人は何らかのサインを発している	ア	イ	ウ	エ	オ
10 自殺は防ぐことができる	ア	イ	ウ	エ	オ
11 自殺は自分にはあまり関係がない	ア	イ	ウ	エ	オ
12 自殺は本人の弱さからおこる	ア	イ	ウ	エ	オ
13 自殺は本人が選んだことだから仕方がない	ア	イ	ウ	エ	オ
14 自殺を口にする人は、本当に自殺はしない	ア	イ	ウ	エ	オ
15 自殺は恥ずかしいことである	ア	イ	ウ	エ	オ

問 22 セーフコミュニティについて、ご意見やご要望があれば自由にご記入ください。

【5 フェイスシート】

最後に、あなた自身のことについてお尋ねします。ご回答いただいた内容については、すべて統計的に処理され、個人が特定されることはありませんので、ご協力をお願いします。

F 1 性別（○は1つ） ※日常生活における性別をご回答ください。

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢（○は1つ）

1 20～24 歳	6 45～49 歳	11 70～74 歳
2 25～29 歳	7 50～54 歳	12 75～79 歳
3 30～34 歳	8 55～59 歳	13 80 歳以上
4 35～39 歳	9 60～64 歳	
5 40～44 歳	10 65～69 歳	

谷折り

F 3 栄区にお住まいの期間（○は1つ）

1 5年未満	5 20～29年
2 5～9年	6 30～39年
3 10～14年	7 40年以上
4 15～19年	

F 4 現在お住まいのご住所（○は1つ）

1 飯島町	15 桂台西一丁目	29 小菅ケ谷三丁目	43 野七里一丁目
2 犬山町	16 桂台西二丁目	30 小菅ケ谷四丁目	44 野七里二丁目
3 尾月	17 桂台東	31 小山台一丁目	45 柏陽
4 笠間町	18 桂台南一丁目	32 小山台二丁目	46 東上郷町
5 笠間一丁目	19 桂台南二丁目	33 庄戸一丁目	47 本郷台一丁目
6 笠間二丁目	20 桂町	34 庄戸二丁目	48 本郷台二丁目
7 笠間三丁目	21 金井町	35 庄戸三丁目	49 本郷台三丁目
8 笠間四丁目	22 上郷町	36 庄戸四丁目	50 本郷台四丁目
9 笠間五丁目	23 上之町	37 庄戸五丁目	51 本郷台五丁目
10 鍛冶ケ谷町	24 亀井町	38 田谷町	52 元大橋一丁目
11 鍛冶ケ谷一丁目	25 公田町	39 長尾台町	53 元大橋二丁目
12 鍛冶ケ谷二丁目	26 小菅ケ谷町	40 長倉町	54 若竹町
13 桂台北	27 小菅ケ谷一丁目	41 長沼町	
14 桂台中	28 小菅ケ谷二丁目	42 中野町	

谷折り

F 5 現在のお住まいの世帯の家族形態（○は1つ）

1 ひとり暮らし	4 親と子と孫（3世代）
2 夫婦2人	5 その他（具体的に）
3 親と子（2世代）	



質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
恐れ入りますが本紙を 3つ折りにして 同封の返信用封筒で
令和2年11月25日（水）までに ご投函ください。